

第 11 次南木曽町総合計画にかかる 住民アンケート 報告書

令和7年3月

目 次

I. 調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の実施概要.....	1
3. 調査の内容.....	1
4. 調査結果を見る際の注意点.....	2
5. 平均点の算出方法.....	2
II. 調査結果の概要.....	3
1. 重要指標の評価.....	3
2. 施策別の評価.....	4
III. 回答者の基本属性.....	5
(1) 性別.....	5
(2) 年齢.....	5
(3) 居住地域.....	5
(4) 居住年数.....	6
(5) 家族構成.....	6
(6) 同居家族[複数回答].....	6
(7) 婚姻状況.....	7
(8) 職業.....	8
(9) 就労・就業場所 【就労している人】	9
(10) 世帯年収.....	9
IV. 南木曽町での暮らしの総合評価.....	10
(1) 南木曽町の住みやすさ.....	10
(2) 南木曽町に対する愛着度.....	11
(3) 南木曽町での定住意向.....	12
(4) 南木曽町での暮らしの満足度.....	13
(5) 住民自身の幸福度.....	14
(6) 居住集落の人々の幸福度.....	16
(7) 南木曽町での暮らしの評価.....	16
【層別の平均点比較】	17
V. 施策分野別の評価.....	22
【政策分野Ⅰ-1】 快適な社会基盤のあるまちづくり.....	22
(1) 施策の満足度.....	22
(2) 施策の重要度.....	23
(3) 満足度と重要度の散布図.....	24
【政策分野Ⅰ-2】 元気とうるおいのあるまちづくり	25
(1) 施策の満足度.....	25
(2) 施策の重要度.....	26
(3) 満足度と重要度の散布図.....	27

【政策分野Ⅱ】 元気に育てなぎそっ子～子ども・保護者・若者を応援する環境づくり	28
(1) 施策の満足度	28
(2) 施策の重要度	29
(3) 満足度と重要度の散布図	30
【政策分野Ⅲ】 健康で元気なハッピーライフ ～人生を豊かにする健康・スポーツ・文化のまちづくり	31
(1) 施策の満足度	31
(2) 施策の重要度	32
(3) 満足度と重要度の散布図	33
【政策分野Ⅳ】 みんなが元気で主役のまちづくり ～協働でつくる健全財政のまちづくり	34
(1) 施策の満足度	34
(2) 施策の重要度	34
(3) 満足度と重要度の散布図	35
【政策10年の変化】 第2期南木曽町地方創生総合戦略の取組	36
VI. 地域づくり活動の分析	37
(1) 自治会加入	37
(2) 自治会役員経験	38
(3) 地域活動への関わり方	39
(4) 地域活動を活性化するために改善すべきこと	40
VII. デジタル活用の分析	41
(1) 日常的に使用しているデジタル機器（複数回答）	41
VIII. 協働の状況	42
(1) 行政情報の取得方法[複数回答]	42
(2) 行政情報が取得できているか	42
(3) 町の施策に住民の意見が反映されているか	43
(4) 住民参加の機会があれば参画してみたいか	44
IX. 今後の町づくりについて	45
(1) これからの10年でどのような南木曽町になってほしいか（複数回答）	45
(2) 将来に向けて残していくべき南木曽町特有の大事なものの、価値（自由記述）	46

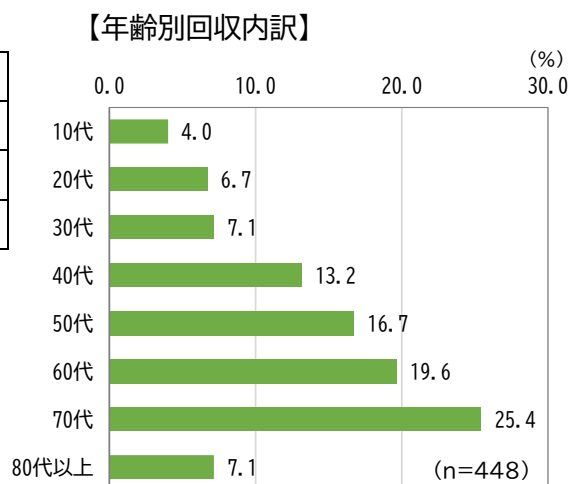
I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、2025 年度から 2034 年度のまちづくりの方針を示す第 11 次南木曽町総合計画・前期基本計画および第 3 期南木曽町地方創生総合戦略の策定に向けて、各分野の施策の状況、町民のまちづくりへの参加状況・意向などを把握するために実施したものである。

2. 調査の実施概要

調査対象者	中学 3 年生以上の 1,000 人を無作為抽出
調査方法	郵送調査
調査期間	令和 6 年 9 月 9 日～9 月 30 日
有効回収数	462 人（有効回収率 46.2%）



3. 調査の内容

カテゴリー	調査項目
I. 回答者属性	・性別 ・年齢 ・居住地区 ・居住年数 ・家族構成 ・同居家族 ・婚姻状態 ・職業 ・就労就学場所 ・世帯年収 ・自治会加入 ・自治会役員経験
II. 南木曽町での暮らし	・住みやすさ ・愛着度 ・定住意向 ・満足度 ・現在の幸福度 ・5年後の幸福度 ・地域の人の幸福度 ・暮らしの評価
III. 南木曽町の政策・施策に対する評価	・政策施策別満足度 ・政策施策別重要度 ・重点的なまちづくりの取組評価
IV. 地域づくり活動について	・地域活動への取組状況 ・地域活動活性化のために必要なこと
V. デジタル活用について	・日常使用しているデジタル機器
VI. 協働について	・行政情報取得方法 ・必要な行政情報の取得 ・町の施策や事業への意見反映に対する考え ・町の施策や事業への参画意向
VII. 今後の町づくりにについて	・南木曽町にどのようなまちになってほしいか ・南木曽町特有の大事なものの、価値

4. 調査結果を見る際の注意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合や文中に示す数値とグラフの数値が一致しない場合がある。
- 図表内の n は該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。
- 1 人の回答者が 2 つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、各項目の回答数を回答者数 (n) で割った比率を示しており、比率の合計は 100%を超える。

5. 平均点の算出方法

設問のうち、「暮らしの評価（問 20）」、「政策・施策評価（問 21）」、「重点的なまちづくりの取組評価（問 22）」は回答を得点化したうえで平均点を算出し、分析を行っている。得点化と平均点の算出方法、評価の基準について以下に示す。

1) 選択肢の得点化

「暮らしの評価」の設問

非常にあてはまる	5 点
ある程度あてはまる	4 点
どちらともいえない	3 点
あまりあてはまらない	2 点
全くあてはまらない	1 点

「政策・施策の満足度」の設問

満足	5 点
どちらかといえば満足	4 点
どちらともいえない	3 点
どちらかといえば不満	2 点
不満	1 点

「政策・施策の重要度」の設問

重要	5 点
どちらかといえば重要	4 点
どちらともいえない	3 点
どちらかといえば重要でない	2 点
重要でない	1 点

平均点の中央値（データを小さい順に並べたときにちょうど真ん中に来る値のこと）は 3.0 である。中央値は、平均点の高低を判断する際の基準値とする。

平均点が中央値より高い場合は肯定的な評価をした者が多く、中央値以下の場合は否定的な評価者が多いとみることができる。

2) 平均値の算出方法

回答者A	4点	}	(4点+3点+2点+5点+2点+・・・+X点)
回答者B	3点		
回答者C	2点		
回答者D	5点		
回答者E	2点		
・・・			
回答者X	X点		
			÷回答者の人数=平均点

II. 調査結果の概要

1. 重要指標の評価

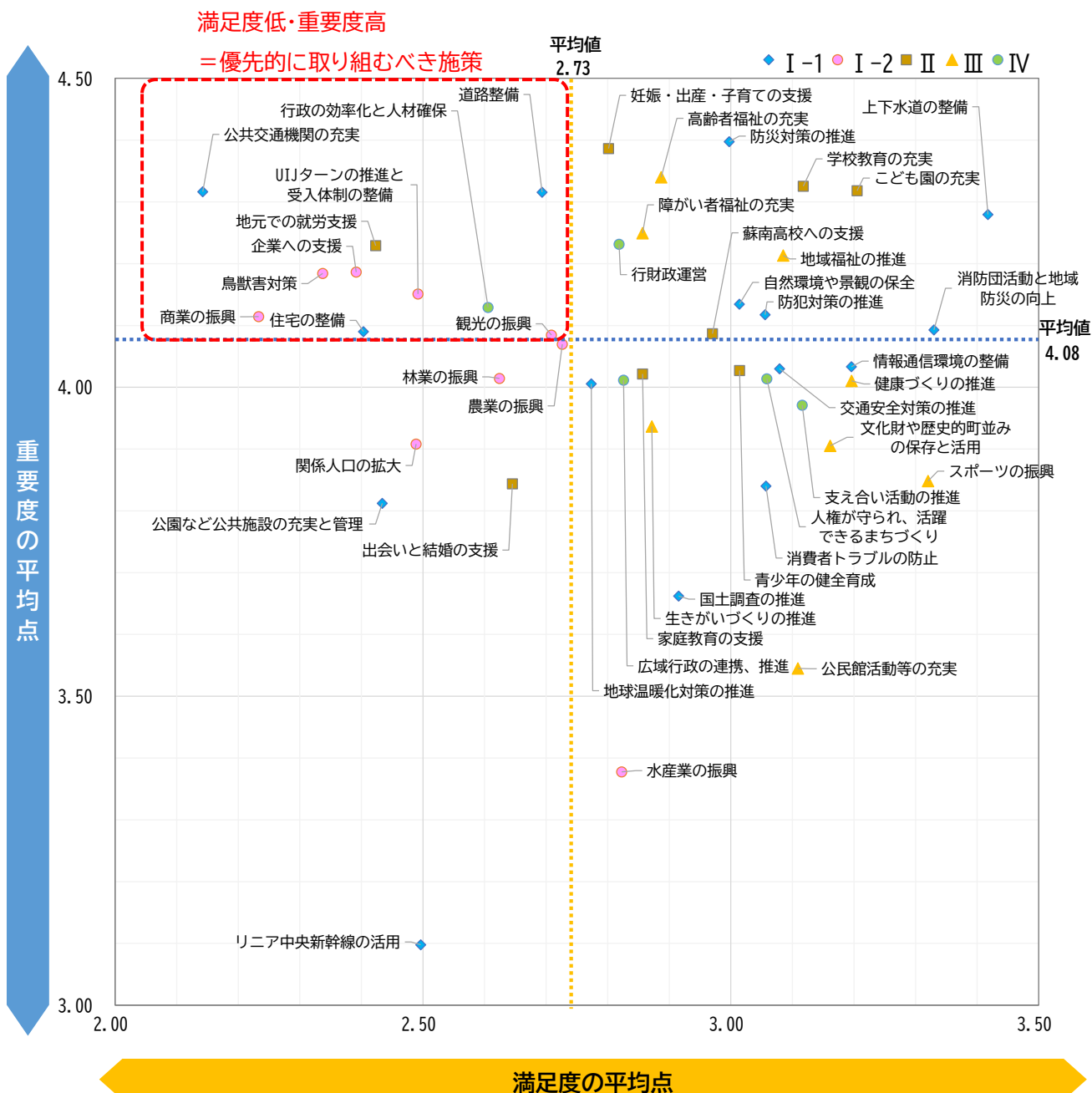
- 今後、長期的に住民アンケートで計測していくべき重要指標の結果を以下にまとめる。
- 幸福度は総合計画の新たな目標として設定した総人口と合わせて施策の最終的なアウトカム（成果）といえる。本調査での結果は平均 6.72 点であり、長野県平均の 6.4 点を上回る幸福度となっている。今後より一層、幸福度を高めていくことが求められる。
- 暮らし満足度の平均点は 5.99 点で幸福度よりも低い点数となっており、長野県平均 6.2 点を下回っている。暮らしやすさを向上させていく取組が重要である。
- 住みやすいと感じている住民は半数にとどまっており、課題といえる。
- 愛着や定住意向は 70%以上の高い割合となっているが、今後、維持・向上していくことが求められる。

重要指標	2024 年調査の結果	参考
幸福度	平均点 6.72	長野県平均 6.4 (Well-being 指標全国調査 2024 年度版)
暮らし満足度	平均点 5.99	長野県平均 6.2 (Well-being 指標全国調査 2024 年度版)
「住みやすい」と回答した割合	50.6%	
「愛着を感じる」と回答した割合	70.0%	
「住み続けたい」と回答した割合	74.9%	

2. 施策別の評価

- 主な施策に対する住民満足度と重要度の関係から、満足度が平均より低く、重要度が平均より高い以下の施策が、優先的に取り組むべき施策といえる。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の充実 ・道路整備 ・地元での就労支援 ・企業への支援 ・鳥獣害対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・UIJ ターンの推進と受入体制の整備 ・行政の効率化と人材確保 ・商業の振興 ・住宅の整備 ・観光の振興 |
|---|---|



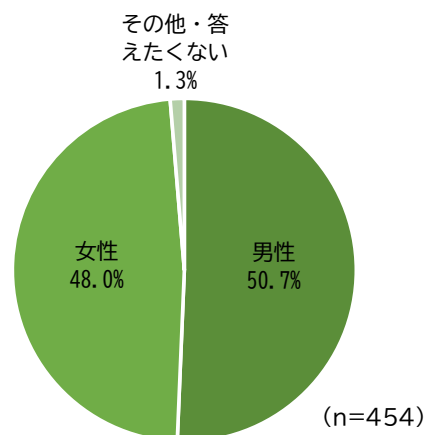
満足度：満足～不満の5段階を5～1点で得点化し、平均点を計算
 重要度：重要～重要ではないの5段階を5～1点で得点化し、平均点を計算
 【政策分野】政策分野Ⅰ－1 快適な社会基盤のあるまちづくり
 政策分野Ⅰ－2 元氣とうるおいのあるまちづくり
 政策分野Ⅱ 元氣に育てなぎそっ子～子ども・保護者・若者を応援する環境づくり
 政策分野Ⅲ 健康で元氣なハッピーライフ～人生を豊かにする健康・スポーツ・文化のまちづくり
 政策分野Ⅳ みんなが元氣で主役のまちづくり～協働でつくる健全財政のまちづくり

III. 回答者の基本属性

(1) 性別

・回答者の性別は、ほぼ半数ずつとなっている。

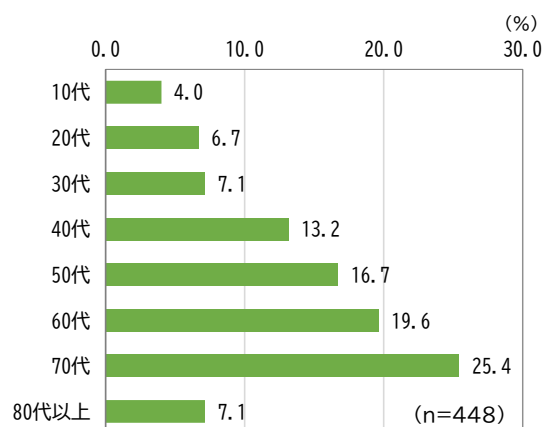
	度数(人)	割合(%)
男性	230	50.7
女性	218	48.0
その他・答えたくない	6	1.3
合計	454	100.0



(2) 年齢

・回答者の年代は 70 代が最も多く 25.4%であり、年代が若いほど、回答者割合は低くなっている。

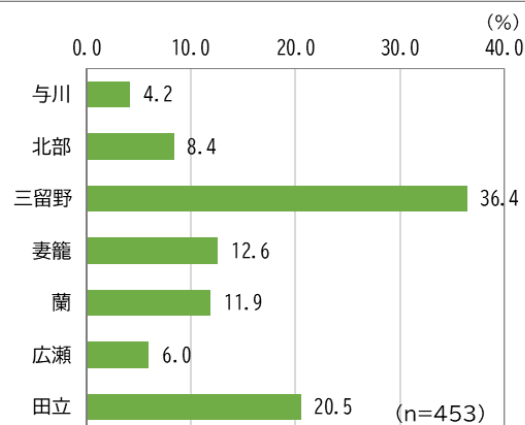
	度数(人)	割合(%)
10代	18	4.0
20代	30	6.7
30代	32	7.1
40代	59	13.2
50代	75	16.7
60代	88	19.6
70代	114	25.4
80代以上	32	7.1
合計	448	100.0



(3) 居住地域

・居住地域別にみると、「未留野」が 36.4%で最も多くなっており、次いで「田立」が 20.5%となっている。

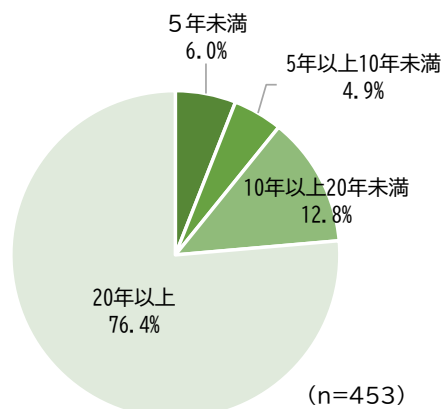
	度数(人)	割合(%)
与川	19	4.2
北部	38	8.4
三留野	165	36.4
妻籠	57	12.6
蘭	54	11.9
広瀬	27	6.0
田立	93	20.5
合計	453	100.0



(4) 居住年数

- ・回答者の居住年数をみると、「20年以上」の割合が76.4%で多く占めている。
- ・10年未満の居住者は、全体の1割ほどである。

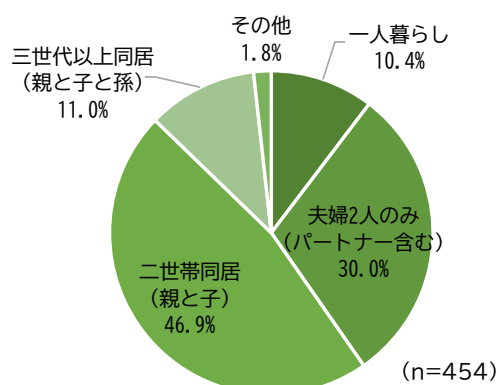
	度数(人)	割合(%)
5年未満	27	6.0
5年以上10年未満	22	4.9
10年以上20年未満	58	12.8
20年以上	346	76.4
合計	453	100.0



(5) 家族構成

- ・回答者の家族構成は、「二世帯同居」が46.9%と最も多くなっている。
- ・「夫婦のみ」は3割、「一人暮らし」は1割である。

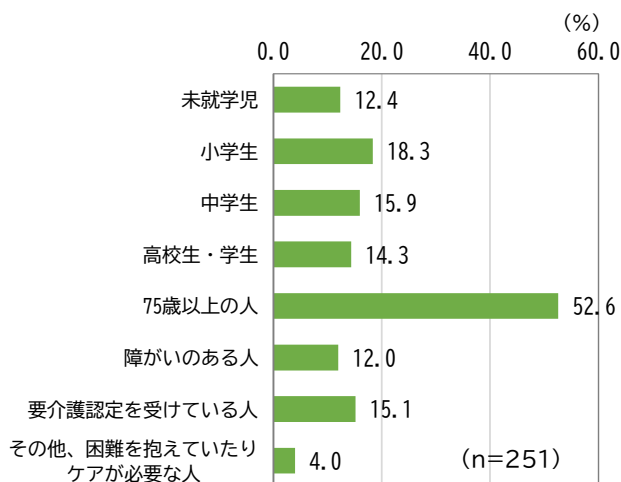
	度数(人)	割合(%)
一人暮らし	47	10.4
夫婦2人のみ(パートナー含む)	136	30.0
二世帯同居(親と子)	213	46.9
三世代以上同居(親と子と孫)	50	11.0
その他	8	1.8
合計	454	100.0



(6) 同居家族[複数回答]

- ・同居家族は、「75歳以上の人」が52.6%と最も多い。
- ・高校生以下の子どもが同居しているという回答は、それぞれ10~15%程度である。
- ・「障がいのある人」「要介護認定を受けている人」との回答も、10%以上みられる。

	度数(人)	割合(%)
未就学児	31	12.4
小学生	46	18.3
中学生	40	15.9
高校生・学生	36	14.3
75歳以上の人	132	52.6
障がいのある人	30	12.0
要介護認定を受けている人	38	15.1
その他、困難を抱えていたりケアが必要な人	10	4.0
回答者合計	251	-



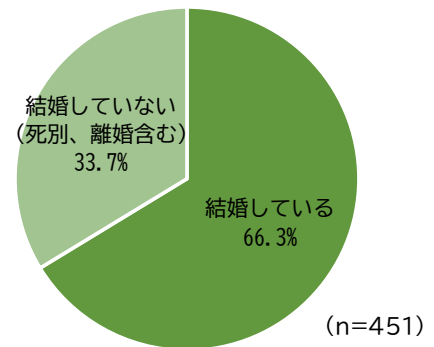
(7) 婚姻状況

- ・婚姻状況は、「結婚している」という回答が 66.3%であった。
- ・20代までは 90%以上が未婚である。30代は既婚と未婚が半々となっている。

	度数(人)	割合(%)
結婚している	299	66.3
結婚していない(死別、離婚含む)	152	33.7
合計	451	100.0

<年代別>

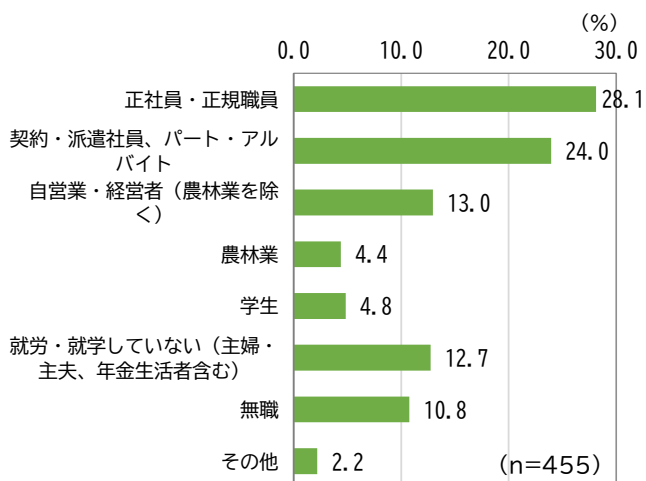
	結婚している	結婚していない(死別、離婚含む)
10代(n=18)	5.6	94.4
20代(n=30)	10.0	90.0
30代(n=32)	50.0	50.0
40代(n=59)	71.2	28.8
50代(n=74)	63.5	36.5
60代(n=88)	71.6	28.4
70代(n=111)	90.1	9.9
80代以上(n=32)	68.8	31.3



(8) 職業

- ・回答者の職業は、「正社員・正規職員」という回答が 28.1%で最も多い。
- ・10代は、全員が学生である。
- ・就労していない割合は、60代で 25.0%、70代で 43.0%、80代以上で 65.6%であり、80代以上でも 30%以上が働いている。

	度数(人)	割合(%)
正社員・正規職員	128	28.1
契約・派遣社員、パート・アルバイト	109	24.0
自営業・経営者(農林業を除く)	59	13.0
農林業	20	4.4
学生	22	4.8
就労・就学していない(主婦・主夫、年金生活者含む)	58	12.7
無職	49	10.8
その他	10	2.2
合計	455	100.0



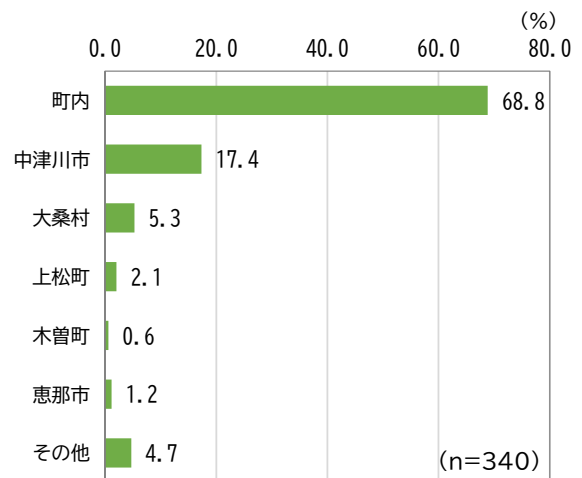
<年代別>

	正社員・正規職員	契約・派遣社員、パート・アルバイト	自営業・経営者(農林業を除く)	農林業	学生	就労・就学していない(主婦・主夫、年金生活者含む)	無職	その他
10代(n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20代(n=30)	66.7	13.3	3.3	0.0	10.0	3.3	0.0	3.3
30代(n=31)	51.6	25.8	6.5	6.5	0.0	3.2	6.5	0.0
40代(n=59)	62.7	22.0	11.9	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7
50代(n=75)	42.7	34.7	10.7	1.3	0.0	4.0	6.7	0.0
60代(n=88)	15.9	33.0	15.9	5.7	0.0	20.5	4.5	4.5
70代(n=114)	5.3	20.2	20.2	7.9	0.9	18.4	24.6	2.6
80代以上(n=32)	0.0	9.4	12.5	9.4	0.0	37.5	28.1	3.1

(9) 就労・就業場所 【就労している人】

- ・就労・就業場所は、「町内」が最も多く 68.8%となっている。
- ・次いで「中津川市」が 17.4%と多く、「恵那市」も含め、県外へ移動している人が 2 割近い。

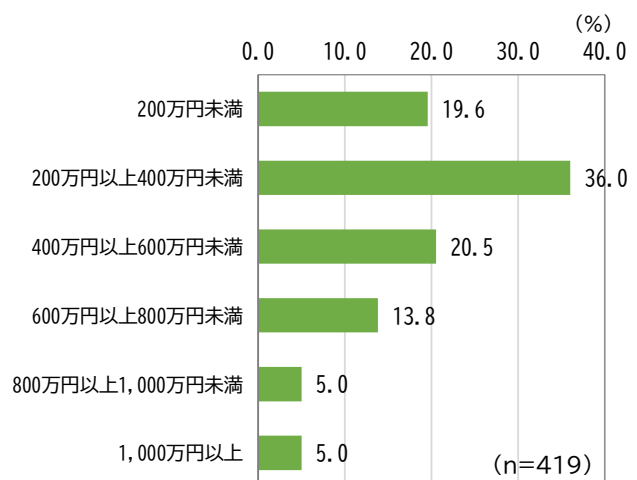
	度数(人)	割合(%)
町内	234	68.8
中津川市	59	17.4
大桑村	18	5.3
上松町	7	2.1
木曽町	2	0.6
恵那市	4	1.2
その他	16	4.7
合計	340	100.0



(10) 世帯年収

- ・世帯年収は、「200 万円以上 400 万円未満」が最も多く 36.0%となっている。
- ・年代別にみると、10 代の学生のいる世帯では、「600 万円以上 800 万円未満」が 45.5%と他の年代よりも高くなっている。一方、80 代以上は「200 万円未満」が 43.3%と低い年収に分布している。

	度数(人)	割合(%)
200万円未満	82	19.6
200万円以上400万円未満	151	36.0
400万円以上600万円未満	86	20.5
600万円以上800万円未満	58	13.8
800万円以上1,000万円未満	21	5.0
1,000万円以上	21	5.0
合計	419	100.0



<年代別>

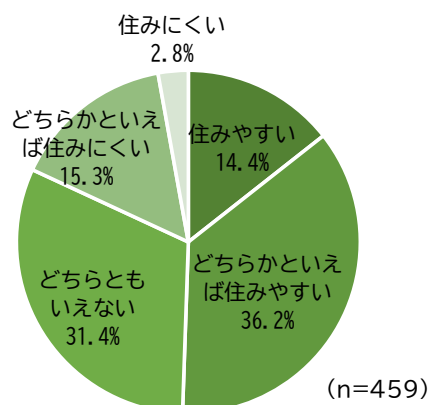
	200万円未満	200万円以上400万円未満	400万円以上600万円未満	600万円以上800万円未満	800万円以上1,000万円未満	1,000万円以上
10代(n=11)	0.0	18.2	18.2	45.5	9.1	9.1
20代(n=28)	14.3	35.7	21.4	10.7	7.1	10.7
30代(n=31)	12.9	29.0	32.3	12.9	6.5	6.5
40代(n=56)	5.4	25.0	28.6	21.4	7.1	12.5
50代(n=72)	15.3	29.2	18.1	20.8	9.7	6.9
60代(n=78)	23.1	34.6	21.8	15.4	2.6	2.6
70代(n=109)	25.7	49.5	15.6	6.4	1.8	0.9
80代以上(n=30)	43.3	40.0	13.3	0.0	3.3	0.0

IV. 南木曽町での暮らしの総合評価

(1) 南木曽町の住みやすさ

- ・南木曽町での暮らしを「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した割合は 50.6%と約半数である。
- ・一方、「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」との回答は 18.1%となっている。
- ・年代別では 80 代以上の「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」合計が 71.9%と全体よりも高い割合となっている。
- ・居住年数別では 5 年未満の層で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と回答した割合が高くなっており、居住年数の短い人の住みにくさ評価が目立っている。

	度数(人)	割合(%)
住みやすい	66	14.4
どちらかといえば住みやすい	166	36.2
どちらともいえない	144	31.4
どちらかといえば住みにくい	70	15.3
住みにくい	13	2.8
合計	459	100.0



<年代別>

	住みやすい	どちらかといえ ば住みやす い	どちらともい えない	どちらかといえ ば住みにく い	住みにくい
10代(n=18)	16.7	33.3	22.2	22.2	5.6
20代(n=30)	13.3	23.3	50.0	10.0	3.3
30代(n=31)	6.5	48.4	16.1	25.8	3.2
40代(n=59)	11.9	40.7	30.5	15.3	1.7
50代(n=75)	14.7	34.7	21.3	25.3	4.0
60代(n=87)	16.1	31.0	36.8	13.8	2.3
70代(n=114)	13.2	37.7	38.6	7.9	2.6
80代以上(n=32)	28.1	43.8	18.8	6.3	3.1

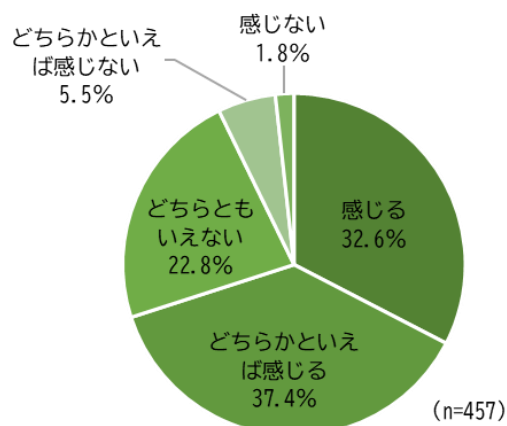
<居住年数別>

	住みやすい	どちらかといえ ば住みやす い	どちらともい えない	どちらかといえ ば住みにく い	住みにくい
5年未満(n=27)	11.1	25.9	25.9	33.3	3.7
5年以上10年未満(n=22)	4.5	59.1	18.2	18.2	0.0
10年以上20年未満(n=58)	20.7	29.3	31.0	17.2	1.7
20年以上(n=344)	14.2	36.9	32.6	13.1	3.2

(2) 南木曽町に対する愛着度

- ・南木曽町に対する愛着度を「感じる」「どちらかといえば感じる」の回答が合わせて 70.0%となっている。
- ・一方、「どちらかといえば感じない」「感じない」との回答は 7.3%である。
- ・年代別では 80 代以上の「感じる」「どちらかといえば感じる」合計が 87.1%と全体より高い割合となっている。「どちらかといえば感じない」「感じない」の割合は 10 代、20 代の若い層で高い傾向がみられる。
- ・居住年数別では居住年数が長いほど愛着を「感じる」割合が高くなっている。

	度数(人)	割合(%)
感じる	149	32.6
どちらかといえば感じる	171	37.4
どちらともいえない	104	22.8
どちらかといえば感じない	25	5.5
感じない	8	1.8
合計	457	100.0



<年代別>

	感じる	どちらかとい えば感じる	どちらともい えない	どちらかとい えば感じない	感じない
10代(n=17)	47.1	29.4	11.8	5.9	5.9
20代(n=30)	33.3	33.3	20.0	13.3	0.0
30代(n=32)	28.1	37.5	25.0	6.3	3.1
40代(n=59)	16.9	57.6	20.3	1.7	3.4
50代(n=75)	30.7	32.0	25.3	9.3	2.7
60代(n=87)	35.6	34.5	21.8	5.7	2.3
70代(n=114)	37.7	31.6	28.9	1.8	0.0
80代以上(n=31)	45.2	41.9	9.7	3.2	0.0

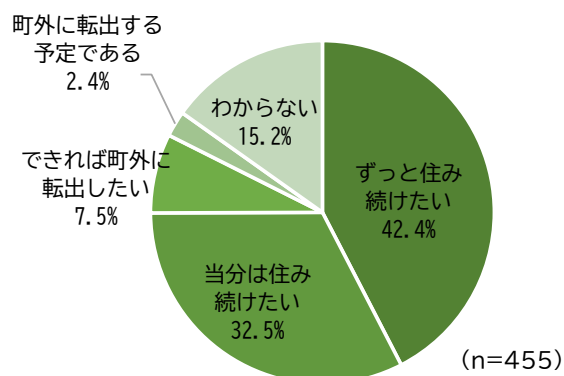
<居住年数別>

	感じる	どちらかとい えば感じる	どちらともい えない	どちらかとい えば感じない	感じない
5年未満(n=27)	18.5	55.6	3.7	18.5	3.7
5年以上10年未満(n=22)	22.7	45.5	22.7	4.5	4.5
10年以上20年未満(n=58)	31.0	37.9	24.1	5.2	1.7
20年以上(n=343)	34.7	35.0	24.2	4.7	1.5

(3) 南木曽町での定住意向

- ・南木曽町に「ずっと住みたい」「当分は住みたい」との回答は、合わせて 74.9%となっている。
- ・一方「できれば町外に転出したい」「町外に転出する予定である」との回答は 9.9%である。
- ・年代別では 10 代、20 代で「わからない」の回答が多くなっている。その他の年代では、70%以上が「ずっと住みたい」「当分は住みたい」と回答している。
- ・居住年数別では 5 年以上 10 年未満の半数が「当分は住みたい」と回答している。

	度数(人)	割合(%)
ずっと住みたい	193	42.4
当分は住みたい	148	32.5
できれば町外に転出したい	34	7.5
町外に転出する予定である	11	2.4
わからない	69	15.2
合計	455	100.0



<年代別>

	ずっと住 みたい	当分は住 みたい	できれば町外 に転出したい	町外に転出す る予定である	わからない
10代(n=17)	5.9	17.6	17.6	17.6	41.2
20代(n=30)	16.7	16.7	16.7	13.3	36.7
30代(n=32)	31.3	40.6	15.6	0.0	12.5
40代(n=59)	25.4	47.5	10.2	3.4	13.6
50代(n=74)	41.9	29.7	5.4	0.0	23.0
60代(n=87)	51.7	34.5	4.6	1.1	8.0
70代(n=113)	54.9	33.6	2.7	0.9	8.0
80代以上(n=32)	62.5	25.0	6.3	0.0	6.3

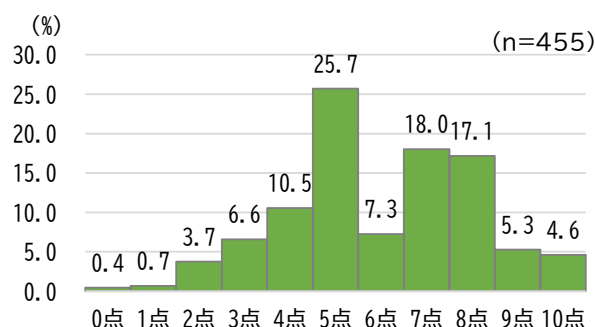
<居住年数別>

	ずっと住 みたい	当分は住 みたい	できれば町外 に転出したい	町外に転出す る予定である	わからない
5年未満(n=27)	29.6	29.6	18.5	11.1	11.1
5年以上10年未満(n=22)	27.3	50.0	9.1	9.1	4.5
10年以上20年未満(n=58)	24.1	37.9	10.3	5.2	22.4
20年以上(n=341)	47.2	31.1	6.2	0.9	14.7

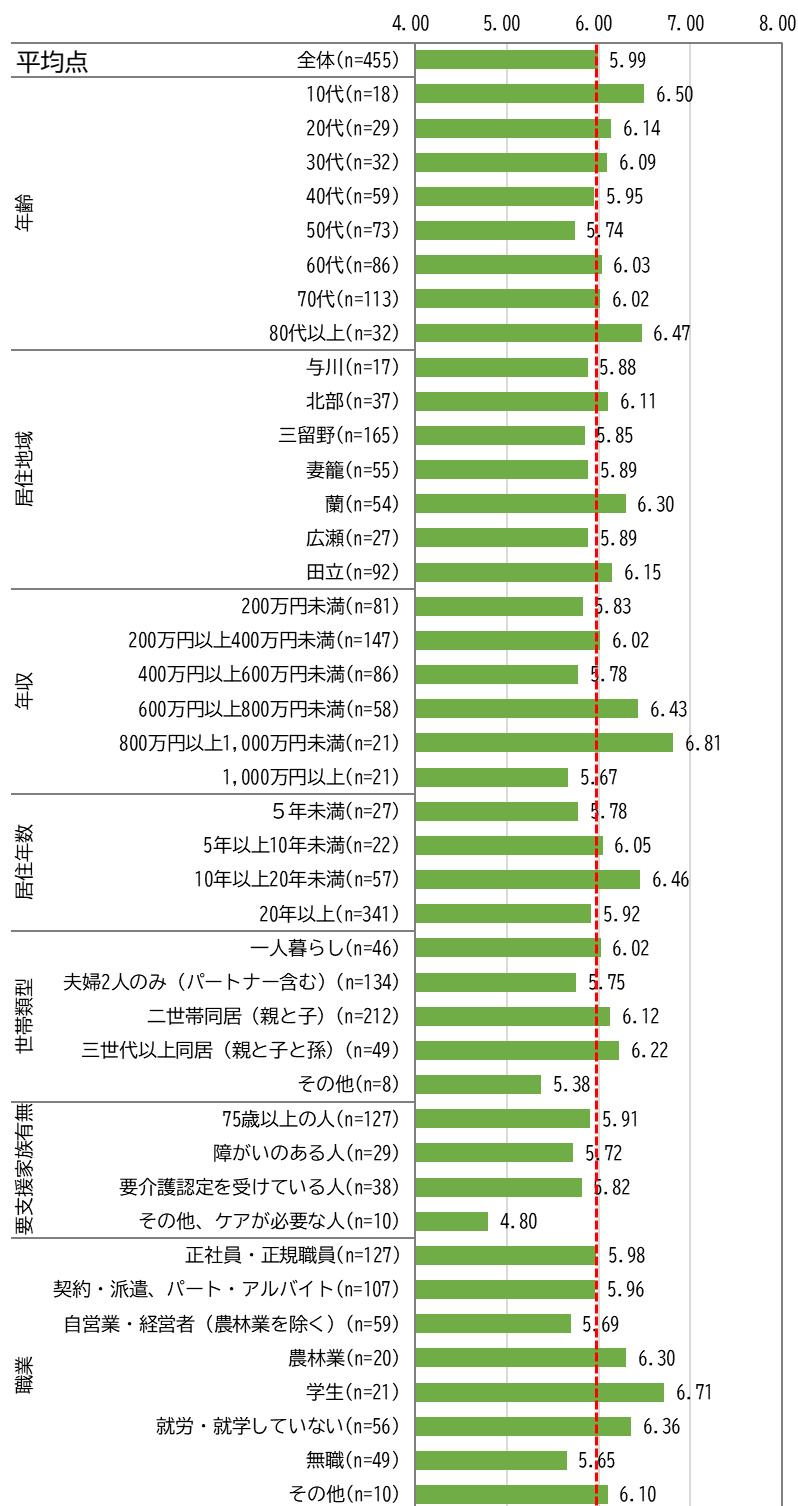
(4) 南木曽町での暮らしの満足度

- ・南木曽町での暮らしの満足度は、平均 5.99 点である。分布をみると、5 点と回答した人が 25.7%で最も多く、次いで、7 点、8 点の回答が多くなっている。
- ・年代別にみると、「10 代」「80 代」の平均が高く、「50 代」の平均がやや低くなっている。
- ・居住地域別では「蘭」地域の平均点が高くなっている。
- ・要支援家族がいる方の回答は、いずれも全体平均を下回り、低い傾向がみられる。

	度数(人)	割合(%)
0点	2	0.4
1点	3	0.7
2点	17	3.7
3点	30	6.6
4点	48	10.5
5点	117	25.7
6点	33	7.3
7点	82	18.0
8点	78	17.1
9点	24	5.3
10点	21	4.6
合計	455	100.0



あまり幸せではない0点～とても幸せ10点で回答
(以下同様)

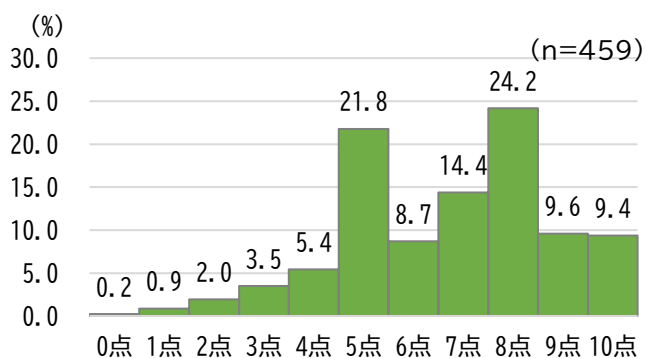


(5) 住民自身の幸福度

- ・住民自身の現在の幸福度の回答分布を見ると、「8点」24.2%、「5点」21.8%の2つのピークがあり、全体の平均点は6.72である。
- ・5年後の幸福度は「5点」が28.2%と最も高く、全体の平均点は6.09である。
- ・現在も5年後も層別に大きな差異はないが、「居住年数5年未満」の層を除き、いずれの層でも5年後の幸福度が現在よりもマイナスとなっている。

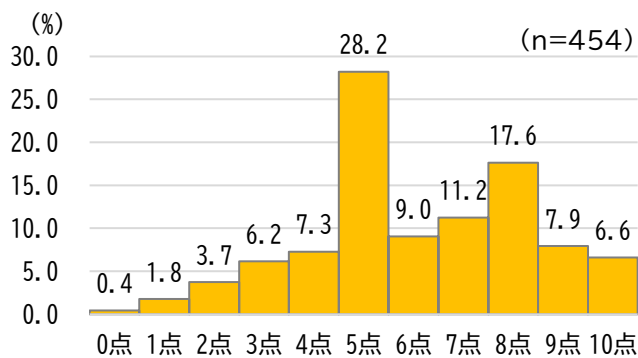
①現在

	度数(人)	割合(%)
0点	1	0.2
1点	4	0.9
2点	9	2.0
3点	16	3.5
4点	25	5.4
5点	100	21.8
6点	40	8.7
7点	66	14.4
8点	111	24.2
9点	44	9.6
10点	43	9.4
合計	459	100.0



②5年後

	度数(人)	割合(%)
0点	2	0.4
1点	8	1.8
2点	17	3.7
3点	28	6.2
4点	33	7.3
5点	128	28.2
6点	41	9.0
7点	51	11.2
8点	80	17.6
9点	36	7.9
10点	30	6.6
合計	454	100.0



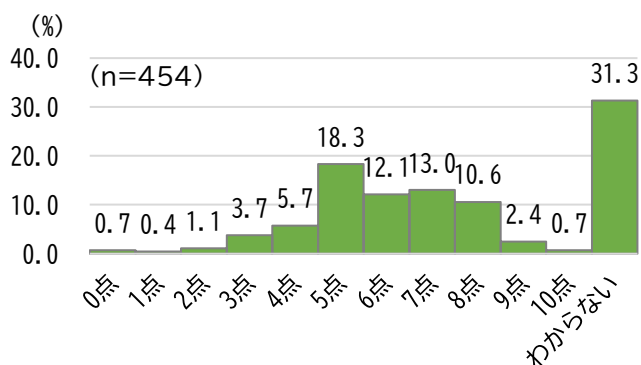
【層別 平均点比較】

		幸福度	5年後幸福度	格差 (5年後-現在)	
全体		6.72	6.09	-0.63	
年齢	10代	7.56	6.89	-0.67	
	20代	6.77	6.69	-0.08	
	30代	7.16	7.06	-0.09	
	40代	6.49	6.05	-0.44	
	50代	6.62	6.23	-0.39	
	60代	6.60	5.94	-0.66	
	70代	6.87	5.93	-0.94	
	80代以上	6.81	5.42	-1.39	
居住地域	与川	5.94	5.61	-0.33	
	北部	6.87	6.13	-0.74	
	三留野	6.69	6.17	-0.52	
	妻籠	6.74	5.80	-0.94	
	蘭	6.74	6.04	-0.70	
	広瀬	6.89	5.96	-0.93	
	田立	6.88	6.29	-0.59	
年収	200万円未満	6.21	5.45	-0.76	
	200万円以上400万円未満	6.66	6.03	-0.63	
	400万円以上600万円未満	6.86	6.03	-0.83	
	600万円以上800万円未満	7.12	6.53	-0.59	
	800万円以上1,000万円未満	7.76	7.33	-0.43	
	1,000万円以上	7.00	6.80	-0.20	
居住年数	5年未満	7.11	7.19	0.07	
	5年以上10年未満	7.14	6.86	-0.27	
	10年以上20年未満	7.35	6.54	-0.82	
	20年以上	6.59	5.89	-0.69	
世帯類型	一人暮らし	6.77	6.38	-0.38	
	夫婦2人のみ（パートナー含む）	6.85	5.92	-0.93	
	二世帯同居（親と子）	6.63	6.05	-0.59	
	三世帯以上同居（親と子と孫）	7.08	6.79	-0.29	
	その他	5.88	5.63	-0.25	
要支援家族有無	75歳以上の人	6.47	5.86	-0.61	
	障がいのある人	6.31	5.41	-0.90	
	要介護認定を受けている人	6.26	5.53	-0.74	
	その他、ケアが必要な人	5.90	4.20	-1.70	
職業	正社員・正規職員	6.64	6.21	-0.43	
	契約・派遣社員、パート・アルバイト	6.94	6.24	-0.70	
	自営業・経営者（農林業を除く）	6.81	6.40	-0.42	
	農林業	6.70	5.90	-0.80	
	学生	7.64	6.82	-0.82	
	就労・就学していない	6.81	5.82	-0.99	
	無職	6.10	5.27	-0.83	
	その他	6.30	6.00	-0.30	

(6) 居住集落の人々の幸福度

・居住している集落の人々の幸福度は、「わからない」が31.3%と最も多い回答であった。

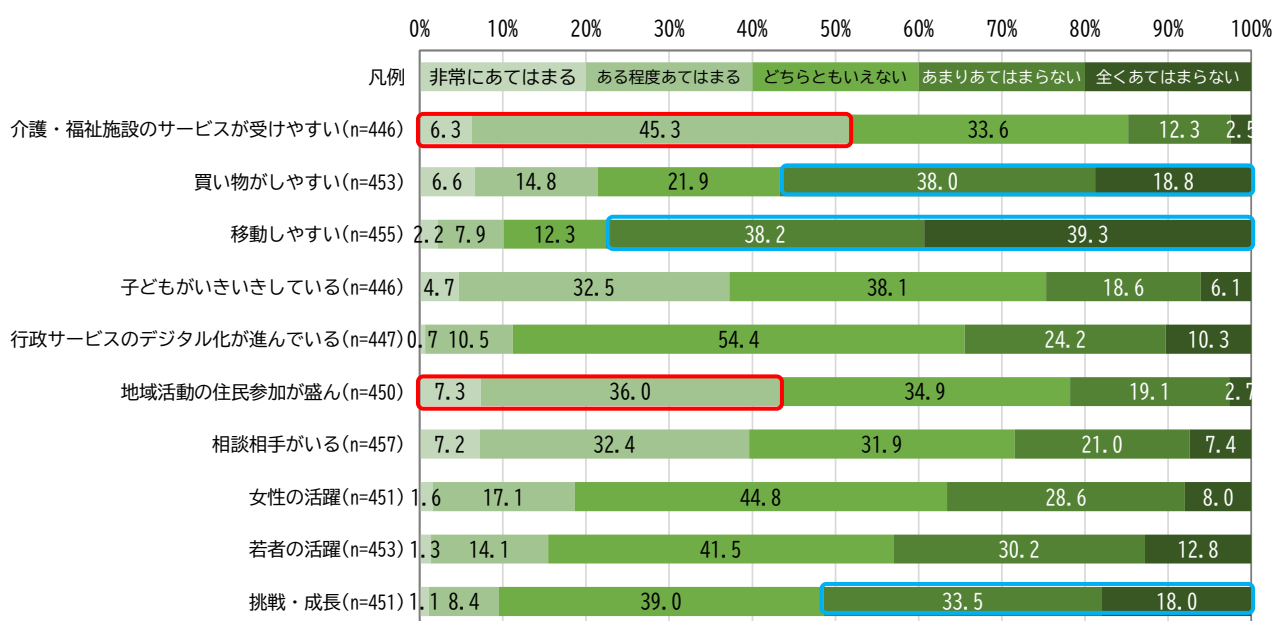
	度数(人)	割合(%)
0	3	0.7
1	2	0.4
2	5	1.1
3	17	3.7
4	26	5.7
5	83	18.3
6	55	12.1
7	59	13.0
8	48	10.6
9	11	2.4
10	3	0.7
わからない	142	31.3
合計	454	100.0



(7) 南木曽町での暮らしの評価

・南木曽町での暮らしの評価は「介護・福祉施設のサービスが受けやすい」が、「非常にあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計が 51.6%と高評価である。次いで、「地域活動の住民参加が盛ん」も 40%を超えている。

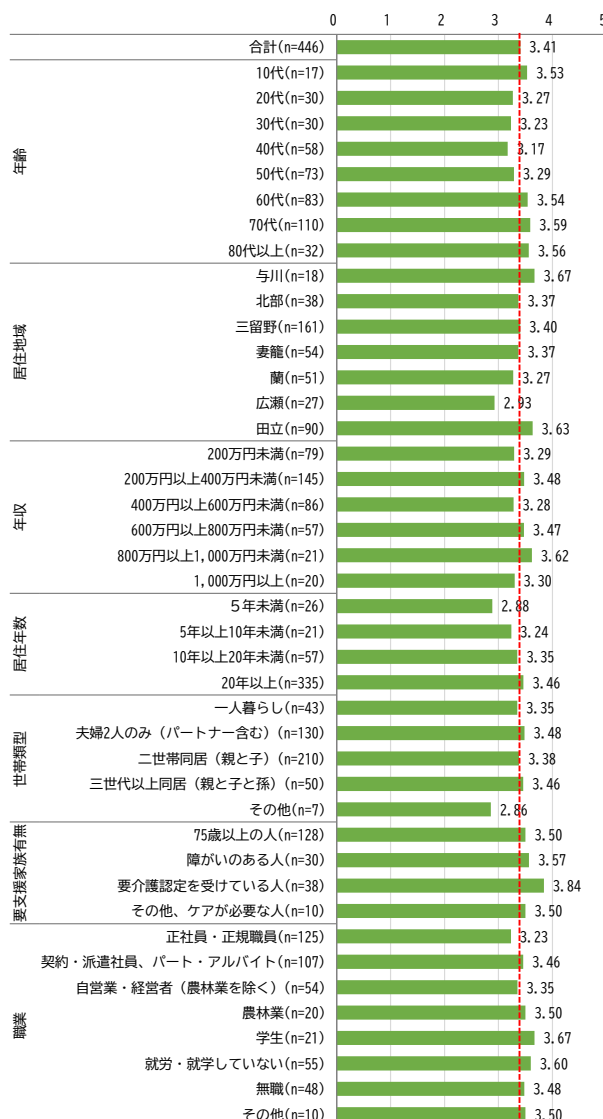
・一方、「買い物がしやすい」「移動しやすい」「新たな挑戦・成長の機会がある」は、「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計が 50%を超えており、特に「移動しやすい」は 77.5%と非常に高い割合でマイナス評価となっている。



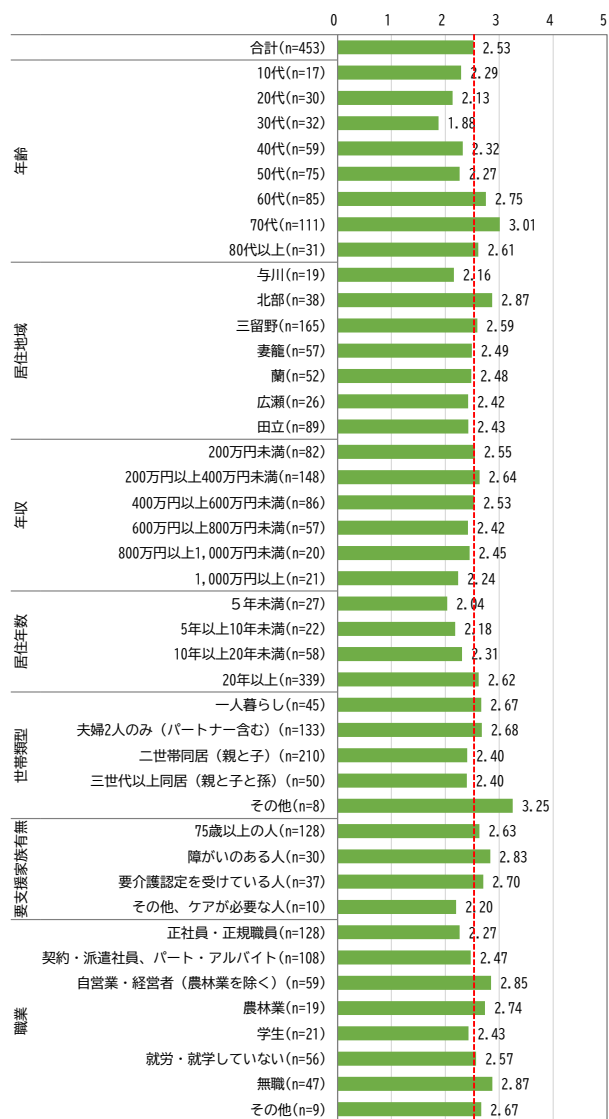
【層別の平均点比較】

- ・暮らしの評価の各項目を平均点で層別に比較してみたものである。
- ・「介護・福祉施設のサービスが受けやすい」の平均点は 3.41 で中央値の 3 点を上回る。層別には「60 代」以上、「要介護認定者がいる」層で平均点がやや高く、受益者の評価が高いとみられる。その他、地区別には「与川」「田立」で高い傾向がみられる。
- ・「買い物しやすい」の平均点は 2.53 と中央値の 3 点を下回る低い評価である。層別には、「30 代」が 1.88 点と最も低く、若い年代で低い傾向がみられる。また、地区別には「与川」、職業別では「正社員・正規職員」で特に低くなっている。

①介護・福祉施設のサービス 平均 3.41

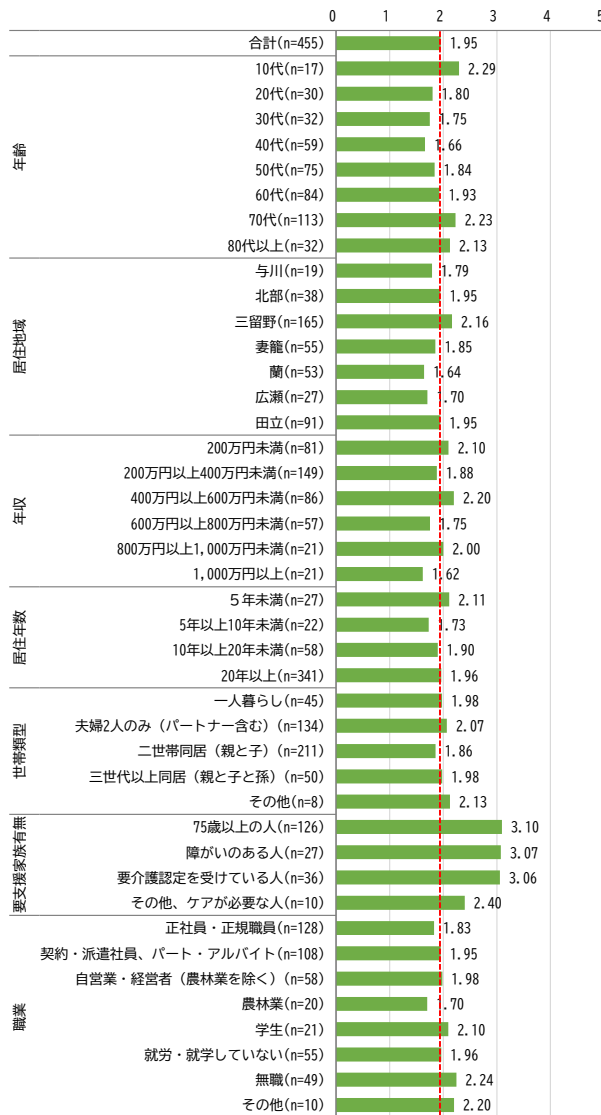


②買い物 平均 2.53

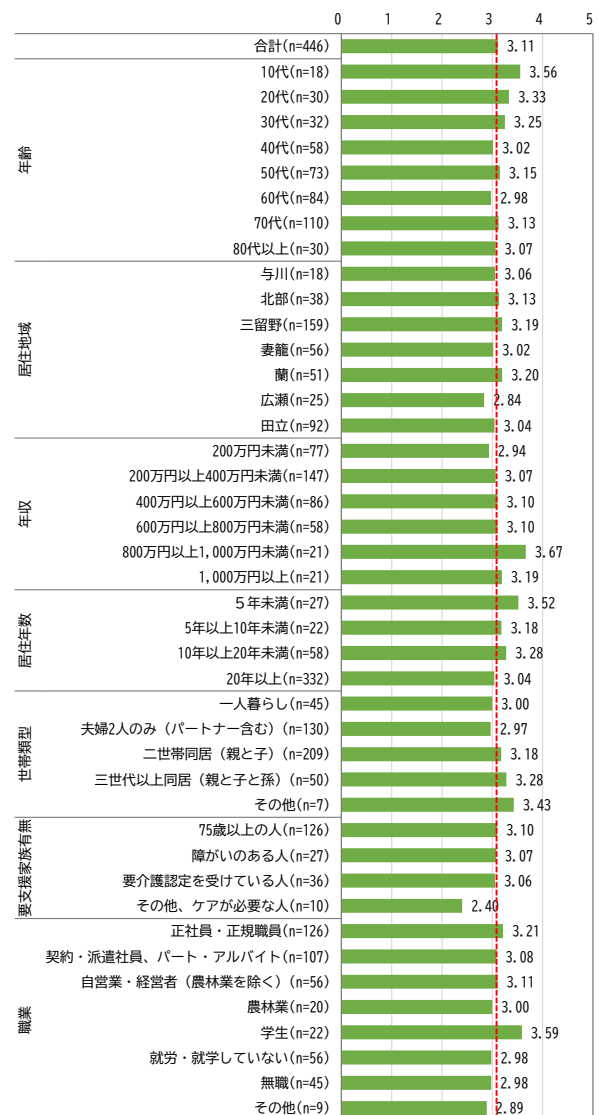


- ・「公共交通機関での移動」の平均点は1.95で、南木曽町の暮らしの評価の分類の中で最も低い平均となっている。年代別では「40代」の平均点が1.66と低く、地域別では「蘭」「広瀬」が低い。要支援家族がいる人の平均は逆に高くなっており、福祉的な移動支援を評価していると考えられる。
- ・「子どもがいきいきと暮らせる」の平均点は3.11で中央値の3点を上回る。層別には、「30代」以下や「学生」で全体平均より高く、子どものいる世代での評価が高いと考えられる。

③公共交通機関での移動 平均 1.95

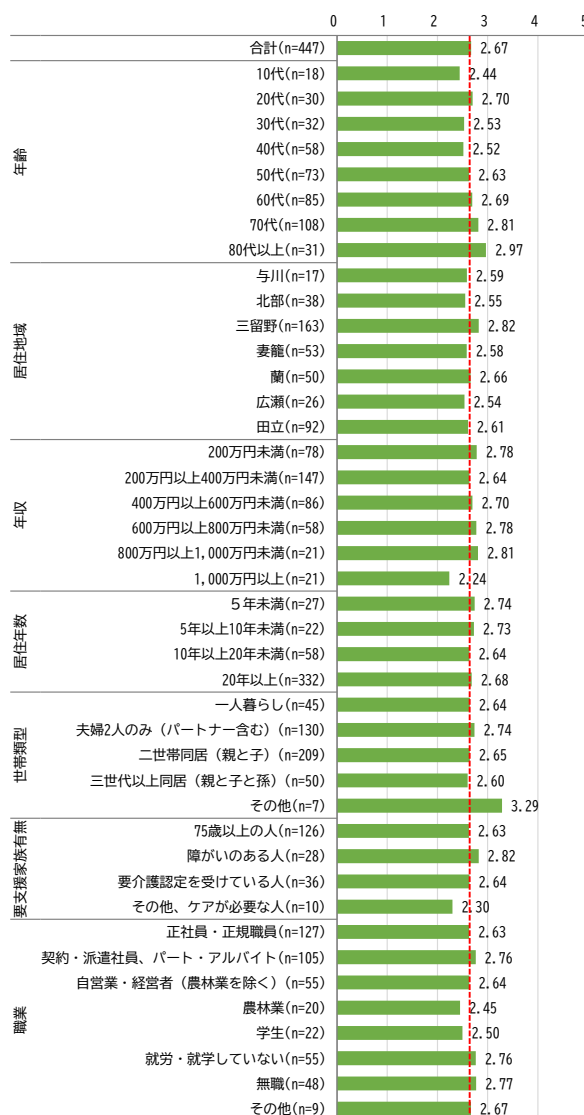


④子どもがいきいき 平均 3.11

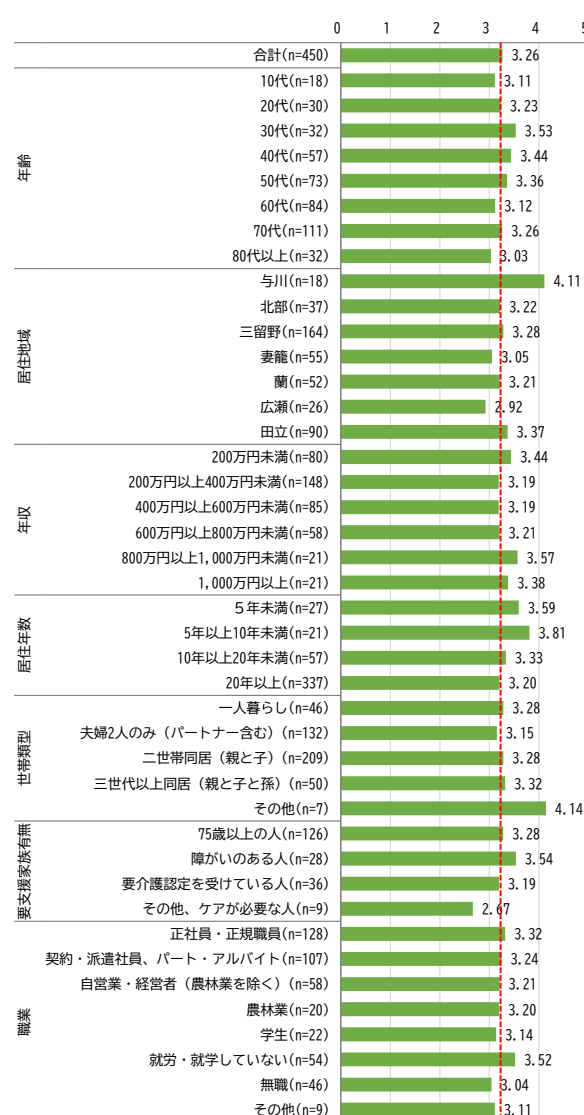


- ・「行政サービスのデジタル化」の平均点は 2.67 で中央値の 3 点を下回る。年収別では「1,000 万円以上」の平均点が 2.24 と最も低くなっている。
- ・「地域活動の住民参加が盛ん」の平均点は 3.26 で中央値の 3 点を上回る。地域別では「与川」が 4.11 点と最も高い一方、「広瀬」は 2.92 点と低くなっている。

⑤行政サービスのデジタル化 平均 2.67

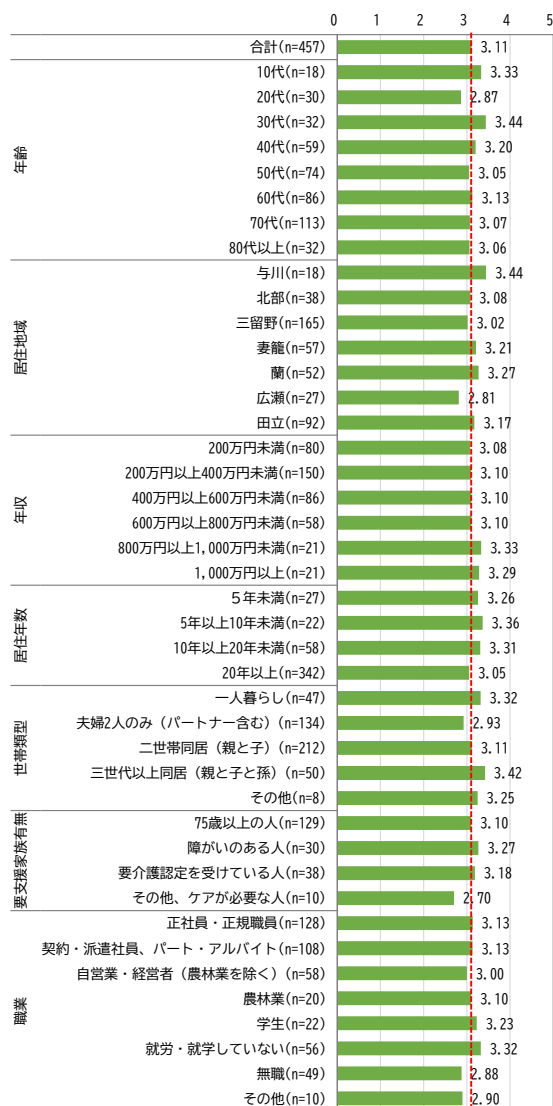


⑥地域活動の住民参加が盛ん 平均 3.26

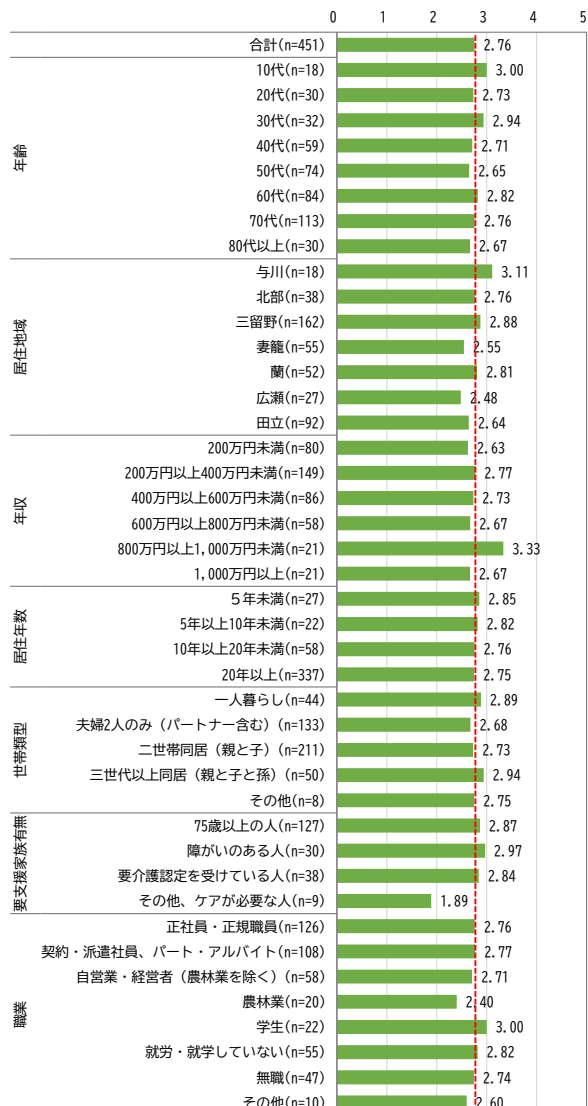


- ・「相談相手がいる」の平均点は 3.11 で中央値の 3 点を上回り、年代別では「30 代」の平均が 3.44 点、地域別では「与川」が 3.44 点と特に高くなっている。
- ・「女性が活躍しやすい」の平均点は 2.76 で中央値の 3 点を下回る。年代別では「10 代」が 3.00 点で最も高い。年収別では「800 万以上 1,000 万未満」が 3.33 点と最も高くなっている。

⑦相談相手がいる 平均 3.11

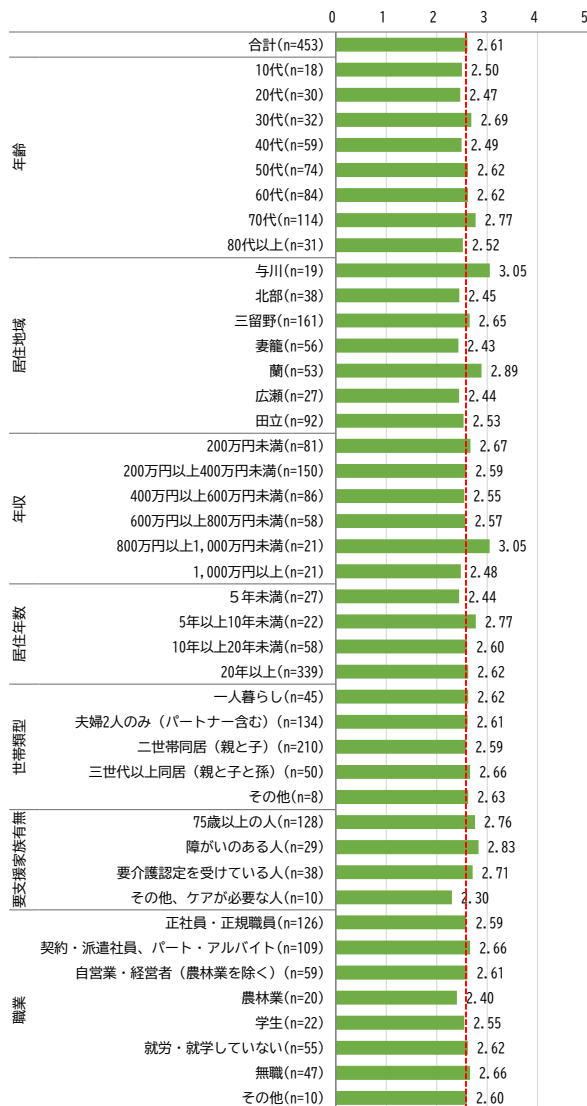


⑧女性が活躍しやすい 平均 2.76

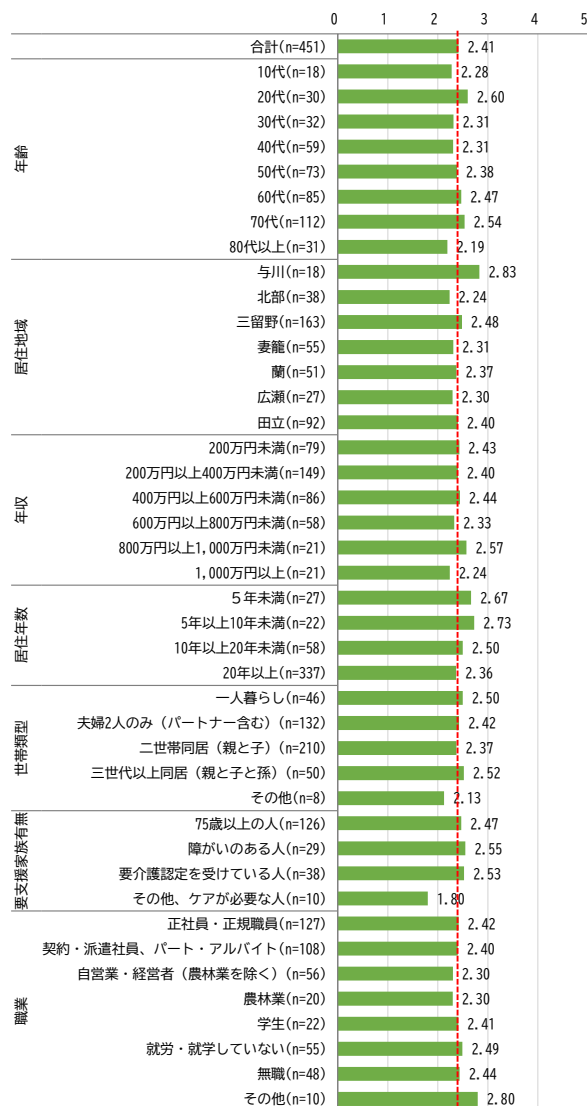


- ・「若者が活躍しやすい」の平均点は 2.61 で中央値の 3 点を下回る。地域別では「与川」3.05 点、「蘭」2.89 点と高くなっている。年収別では「800 万以上 1,000 万未満」が 3.05 点と最も高い。
- ・「挑戦・成長する機会がある」の平均点は 2.41 で中央値の 3 点を下回る。年代別では「20 代」、地域別では「与川」が高いほか、居住年数の短い層で高い傾向がみられる。

⑨若者が活躍しやすい 平均 2.61



⑩挑戦・成長する機会がある 平均 2.41



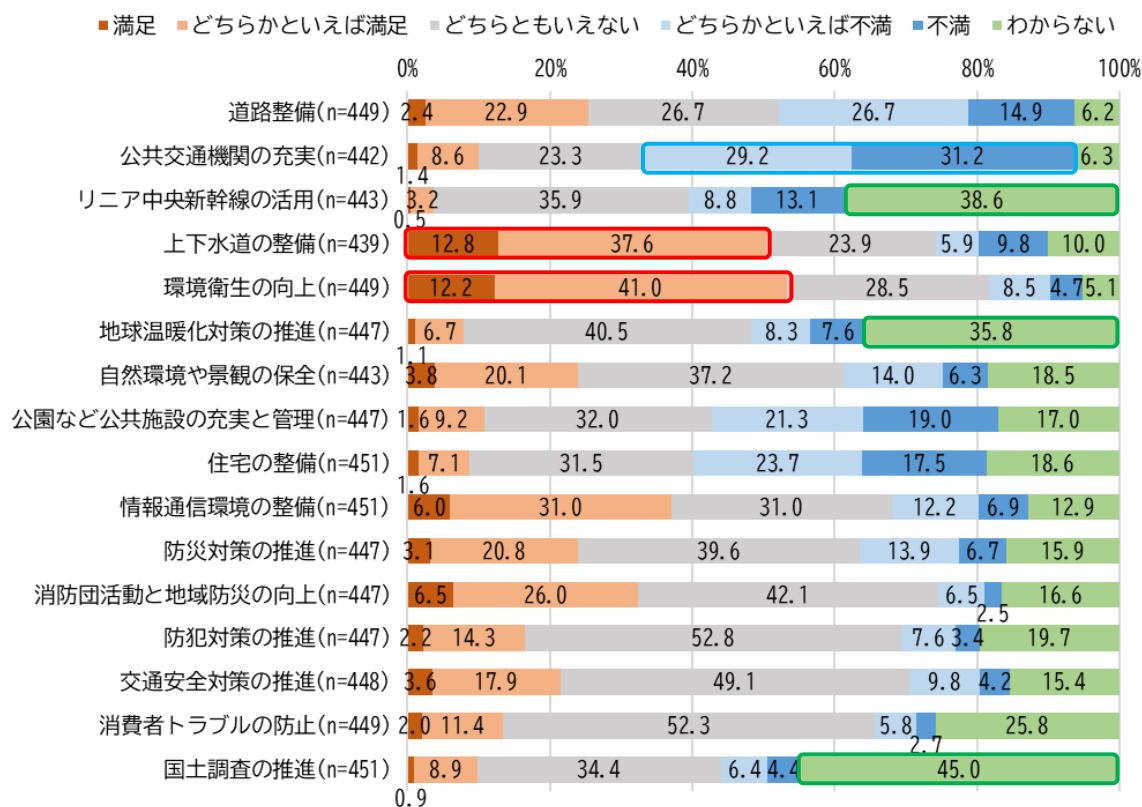
V. 施策分野別の評価

政策分野・施策ごとの満足度および重要度について示す。

【政策分野 I -1】 快適な社会基盤のあるまちづくり

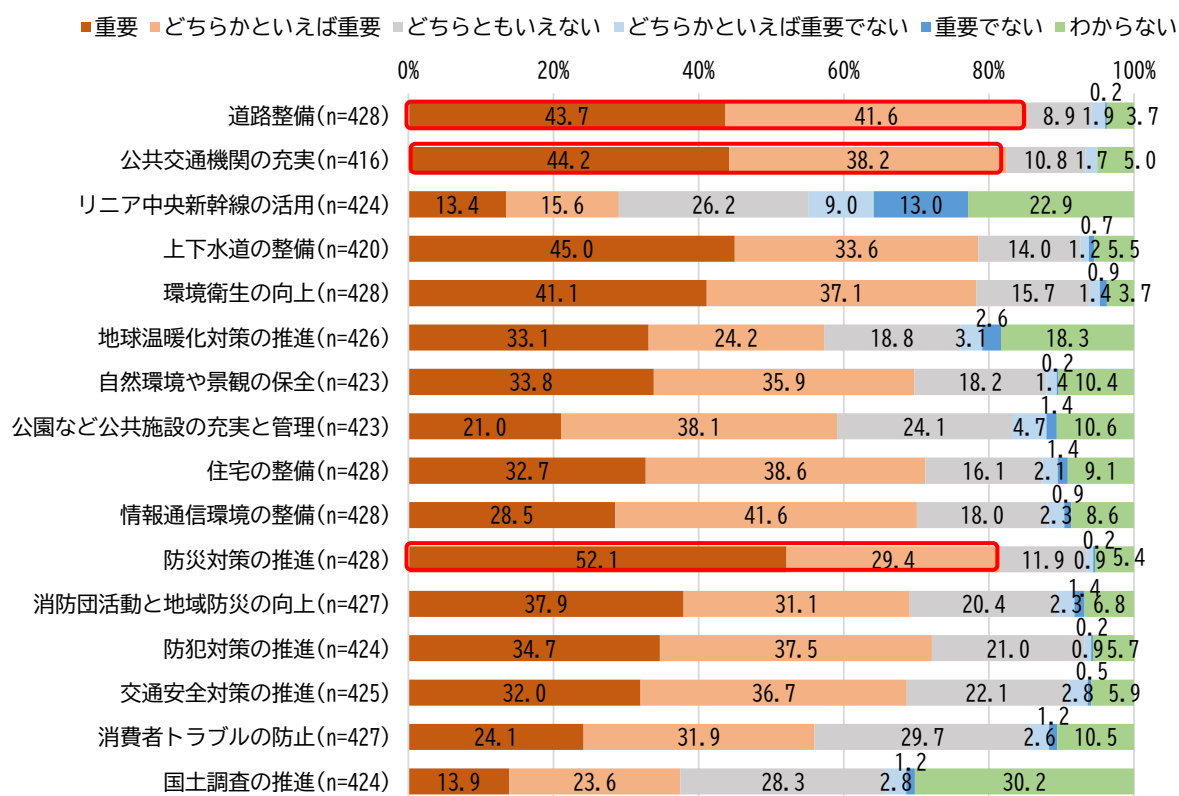
(1) 施策の満足度

- 「快適な社会基盤のあるまちづくり」の関連施策では、「上下水道の整備」「環境衛生の向上」が、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が 50%を超えている。
- 「公共交通機関の充実」は「どちらかといえば不満」「不満」の合計が、60.4%となっている。
- 「防犯対策の推進」52.8%、「消費者トラブルの防止」52.3%、「交通安全対策の推進」49.1%が、「どちらともいえない」と回答している。
- 回答保留（わからない）の割合は、「国土調査の推進」が 45.0%と最も高く、次いで「リニア中央新幹線の活用」38.6%、「地球温暖化対策の推進」35.8%となっている。



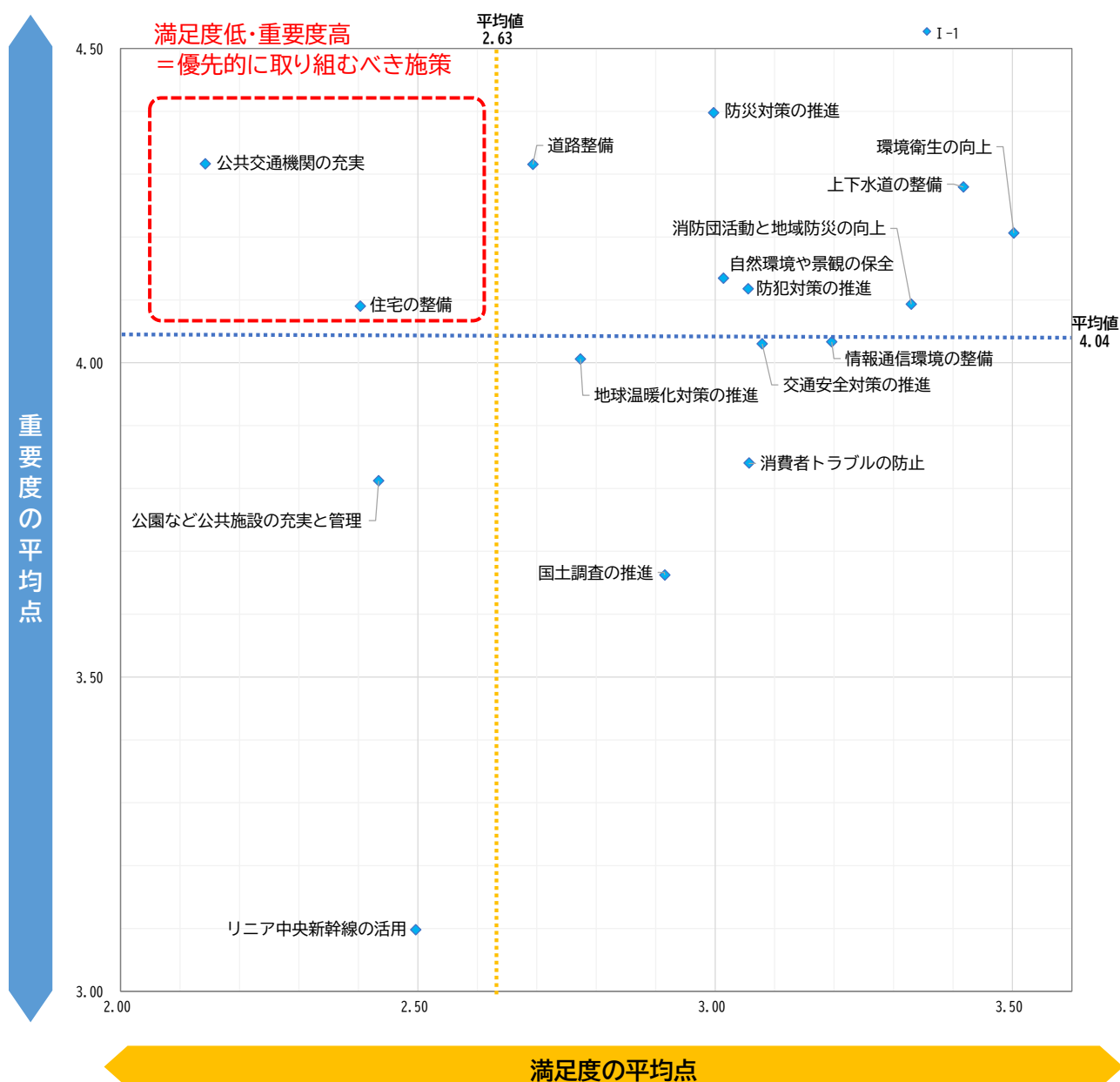
(2) 施策の重要度

- 「快適な社会基盤のあるまちづくり」の関連施策では、「道路整備」「公共交通機関の充実」「防災対策の推進」が、「重要」「どちらかといえば重要」の合計が80%を超えている。
- 一方、「リニア中央新幹線の活用」は「重要」「どちらかといえば重要」の合計が、29.0%と低い割合となっている。
- 「リニア中央新幹線の活用」「国土調査の推進」を除く施策について、50%以上が重要な施策であると回答している。
- 回答保留（わからない）の割合は、「国土調査の推進」が30.2%と最も高く、次いで「リニア中央新幹線の活用」22.9%となっている。



(3) 満足度と重要度の散布図

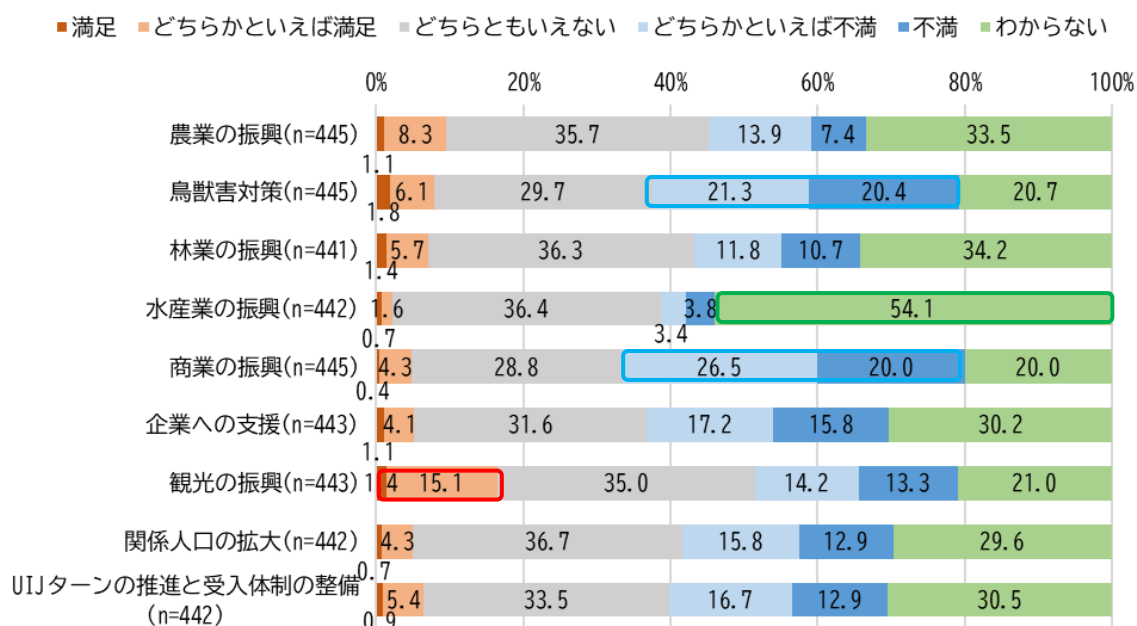
- 「快適な社会基盤のあるまちづくり」の関連施策では、「道路整備」「上下水道の整備」「環境衛生の向上」「自然環境や景観の保全」「防災対策の推進」「防犯対策の推進」「消防団活動と地域防災の向上」の7項目が、重要度の平均値、満足度の平均値ともに上回っている。
- 「公共交通機関の充実」「リニア中央新幹線の活用」「公園など公共施設の充実と管理」「住宅の整備」の4項目で、満足度の平均値を下回っている。
- 「公園など公共施設の充実と管理」「リニア中央新幹線の活用」「地球温暖化対策の推進」「情報通信環境の整備」「交通安全対策の推進」「消費者トラブルの防止」「国土調査の推進」の7項目で、重要度の平均値を下回っている。



【政策分野Ⅰ-2】 元気とうるおいのあるまちづくり

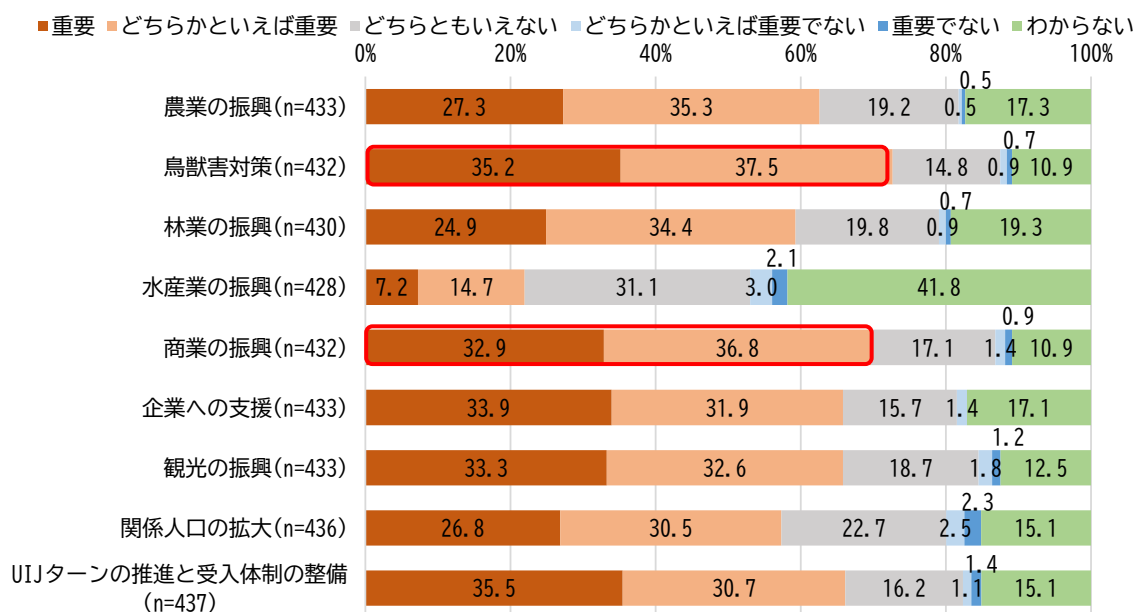
(1) 施策の満足度

- 「元気とうるおいのあるまちづくり」の関連施策は、どの施策も「どちらともいえない」との回答が28～37%で高く、満足度が全般的に低い分野といえる。満足度が最も高いのが「観光の振興」で、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が16.5%にとどまる。
- 「商業の振興」は「どちらかといえば不満」「不満」の合計が46.5%と最も高く、「鳥獣害対策」も不満の合計が40%を超えている。
- 回答保留（わからない）の割合は、「水産業の振興」が54.1%と最も高い。



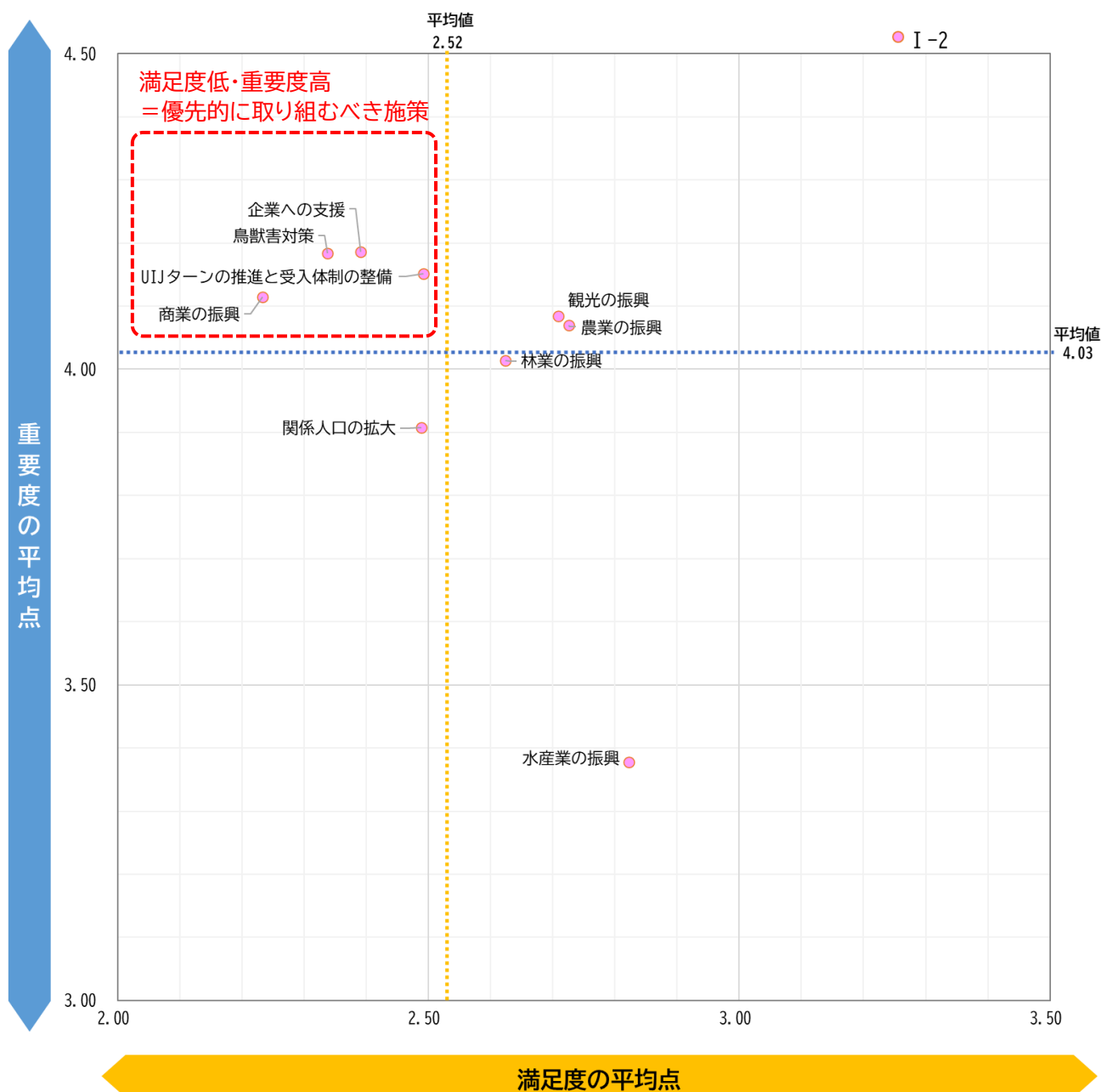
(2) 施策の重要度

- 「元気とうるおいのあるまちづくり」の関連施策では、「鳥獣害対策」が、「重要」「どちらかといえば重要」の合計が 72.7%で最も高く、次いで「商業の振興」が 69.7%となっている。
- 「水産業の振興」は「重要」「どちらかといえば重要」の合計が 21.9%と最も低い割合である。
- 回答保留（わからない）の割合は、「水産業の振興」が 41.8%と最も高い。



(3) 満足度と重要度の散布図

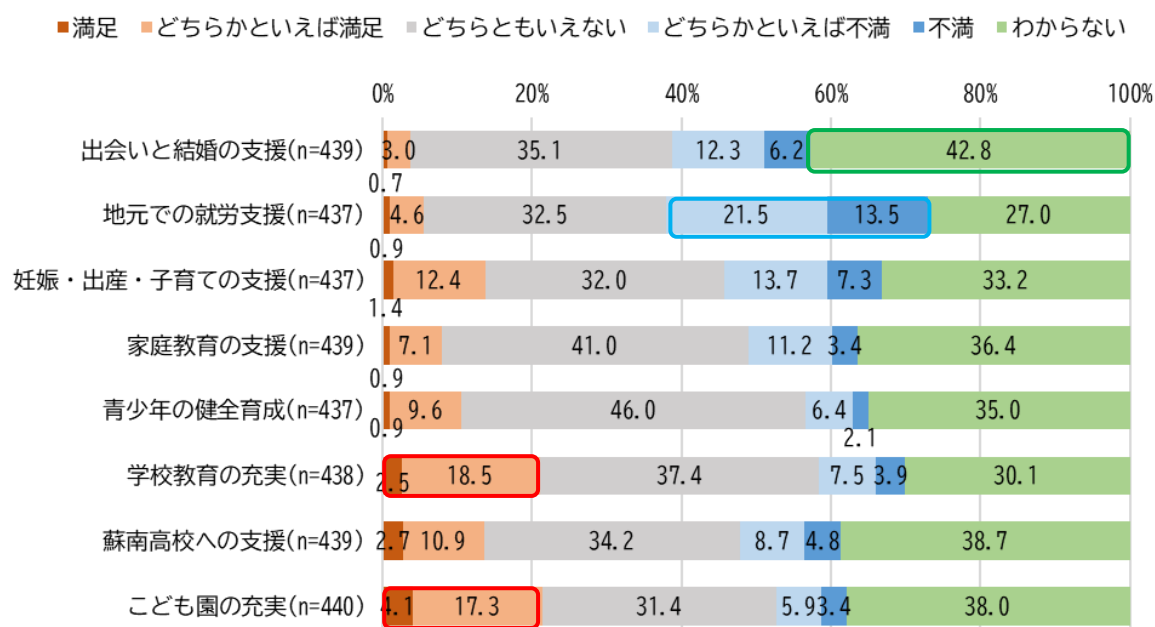
- 「元気とおいしいのあるまちづくり」の関連施策では、「農業の振興」「観光の振興」の2項目が、重要度の平均値、満足度の平均値ともに上回っている。
- 「鳥獣害対策」「商業の振興」「企業への支援」「関係人口の拡大」「UIJターンの推進と受入体制の整備」の5項目で、満足度の平均値を下回っている。
- 「林業の振興」「水産業の振興」「関係人口の拡大」の3項目で、重要度の平均値を下回っている。



【政策分野Ⅱ】 元気に育てなぎそっ子～子ども・保護者・若者を応援する環境づくり

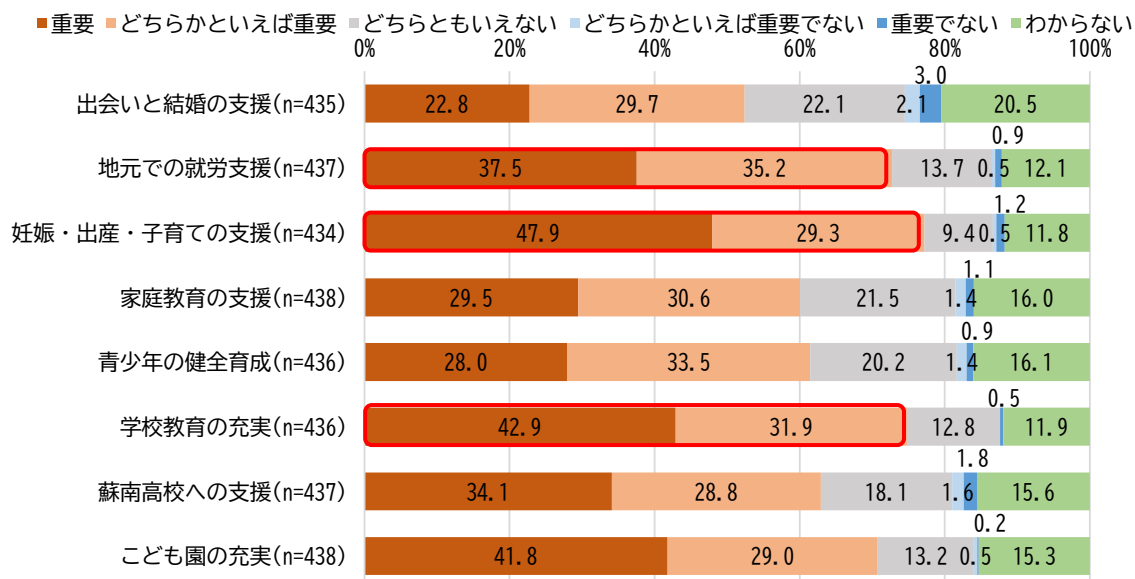
(1) 施策の満足度

- 「元気に育てなぎそっ子～子ども・保護者・若者を応援する環境づくり」の関連施策では、「こども園の充実」「学校教育の充実」が、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が20%を超えて高い割合になっている。
- 一方、「地元での就労支援」は「どちらかといえば不満」「不満」の合計が35.0%と高い割合となっている。
- どの施策も「どちらともいえない」の回答が30%を超えている。
- 回答保留（わからない）の割合は、「出会いと結婚の支援」が42.8%と最も高い。



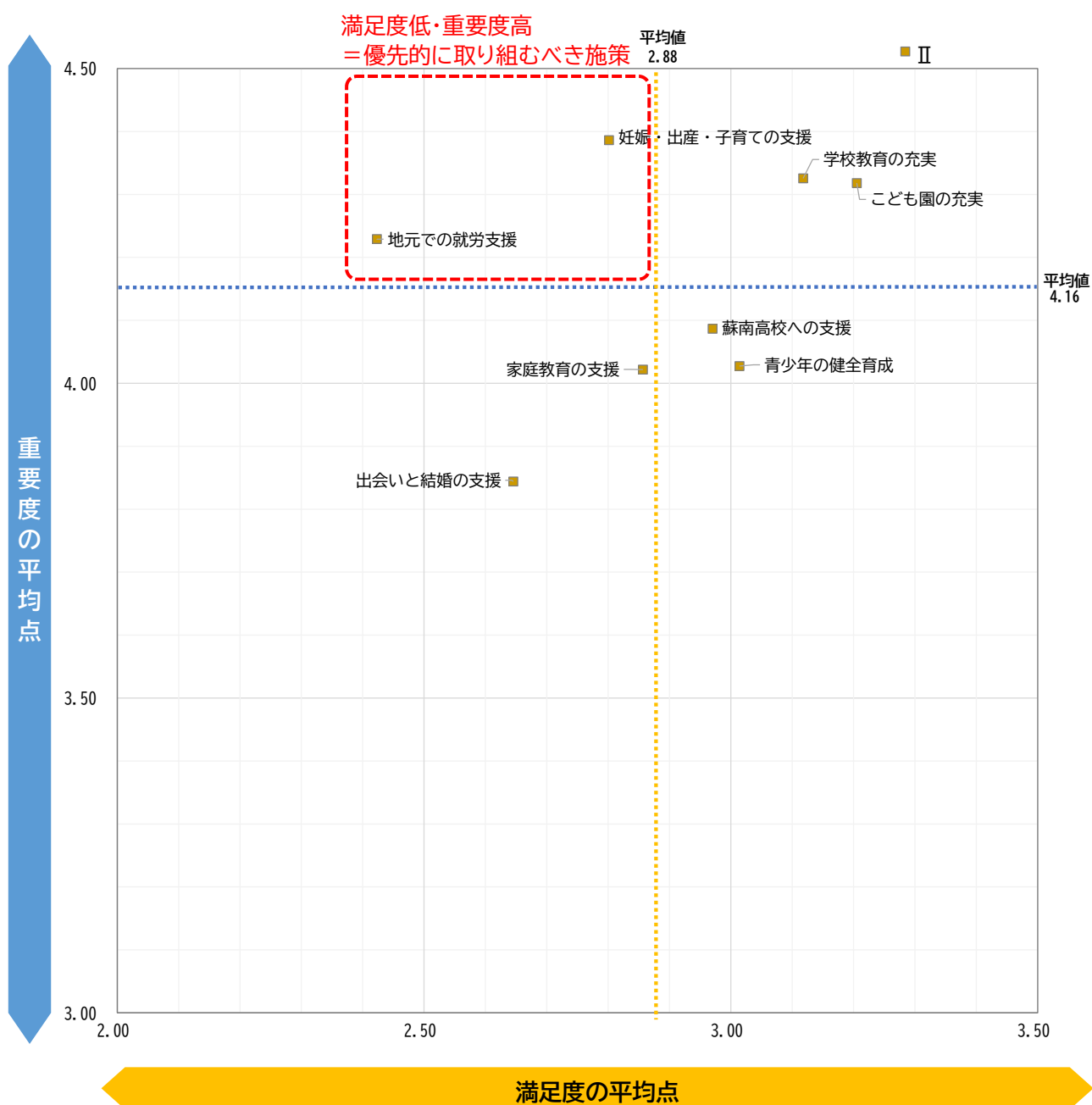
(2) 施策の重要度

- 「元気に育てなぎそっ子～子ども・保護者・若者を応援する環境づくり」の関連施策では、「妊娠・出産・子育ての支援」が、「重要」「どちらかといえば重要」の合計が 77.2%で最も高い割合になっている。次いで「学校教育の充実」74.8%、「地元での就労支援」72.7%となっている。
- 「重要」「どちらかといえば重要」の合計が最も低いのは、「出会いと結婚の支援」で 52.5%となっている。
- 回答保留（わからない）の割合は、「出会いと結婚の支援」が 20.5%と最も高い。



(3) 満足度と重要度の散布図

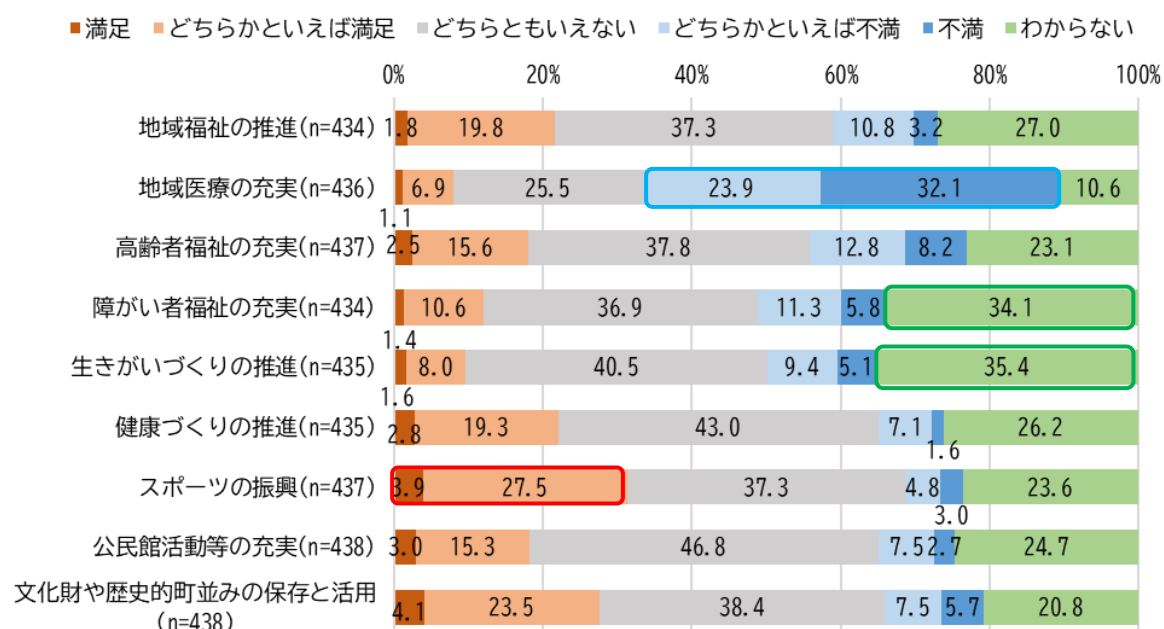
- 「元気に育てなぎそっ子～子ども・保護者・若者を応援する環境づくり」の関連施策では、「学校教育の充実」「こども園の充実」の2項目が、重要度の平均値、満足度の平均値ともに上回っている。
- 「妊娠・出産・子育ての支援」「地元での就労支援」の2項目で、満足度が平均値以下、かつ重要度が平均値以上となっている。
- 「出会いと結婚の支援」「家庭教育の支援」「青少年の健全育成」「蘇南高校への支援」の4項目で重要度の平均値を下回っている。



【政策分野Ⅲ】 健康で元気なハッピーライフ ～人生を豊かにする健康・スポーツ・文化のまちづくり

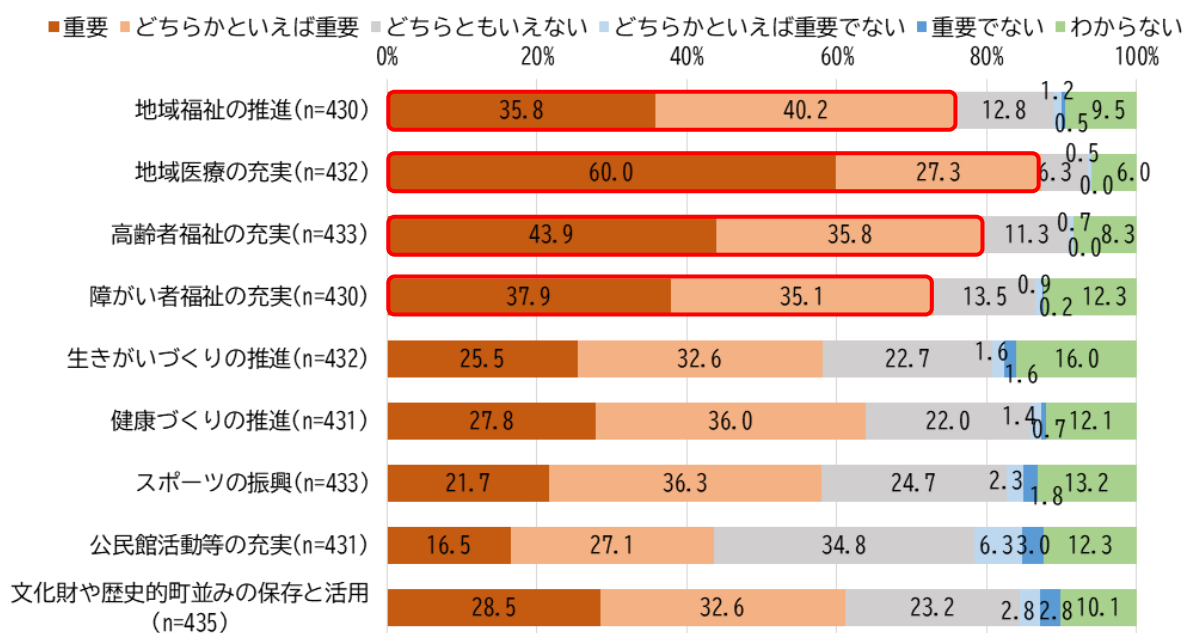
(1) 施策の満足度

- 「健康で元気なハッピーライフ ～人生を豊かにする健康・スポーツ・文化のまちづくり」の関連施策では、「スポーツの振興」が、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が 31.4%で最も高い割合になっている。
- 一方、「地域医療の充実」は「どちらかといえば不満」「不満」の合計が 56.0%と過半数となっている。
- 「生きがいづくりの推進」「健康づくりの推進」「公民館活動等の充実」の「どちらともいえない」の回答が 40%を超えている。
- 回答保留（わからない）の割合は、「生きがいづくりの推進」と「障がい者福祉の充実」が 30%以上と高くなっている。



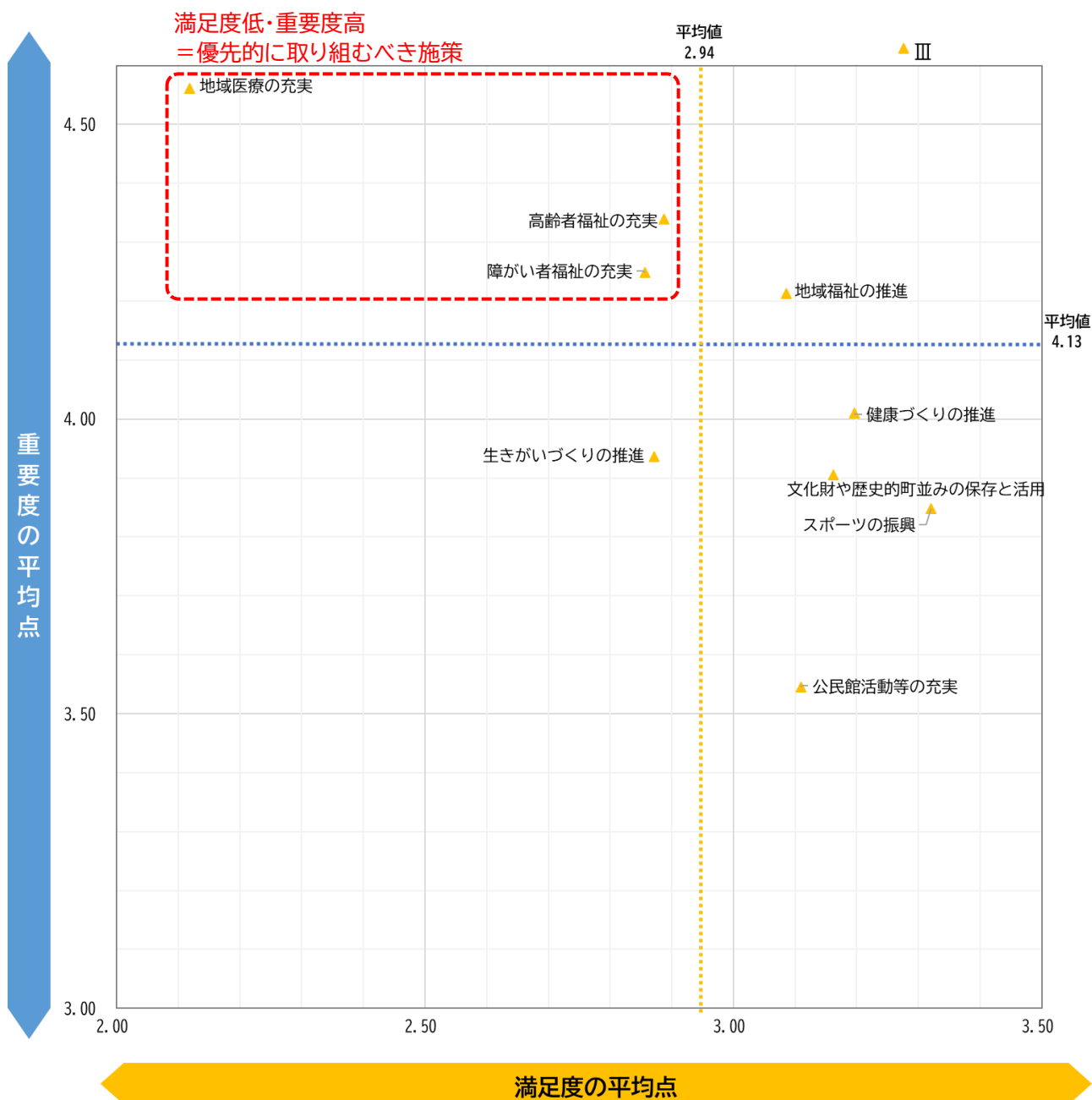
(2) 施策の重要度

- 「健康で元気なハッピーライフ ～人生を豊かにする健康・スポーツ・文化のまちづくり」の関連施策では、「地域医療の充実」が、「重要」「どちらかといえば重要」の合計が 87.3%で最も高い割合になっている。他にも「高齢者福祉の充実」79.7%、「地域福祉の推進」76.0%、「障がい者福祉の充実」73.0%が特に高い割合になっている。
- 「公民館活動等の充実」は「重要」「どちらかといえば重要」の合計が 43.6%とこの施策の中では最も低い割合となっている。



(3) 満足度と重要度の散布図

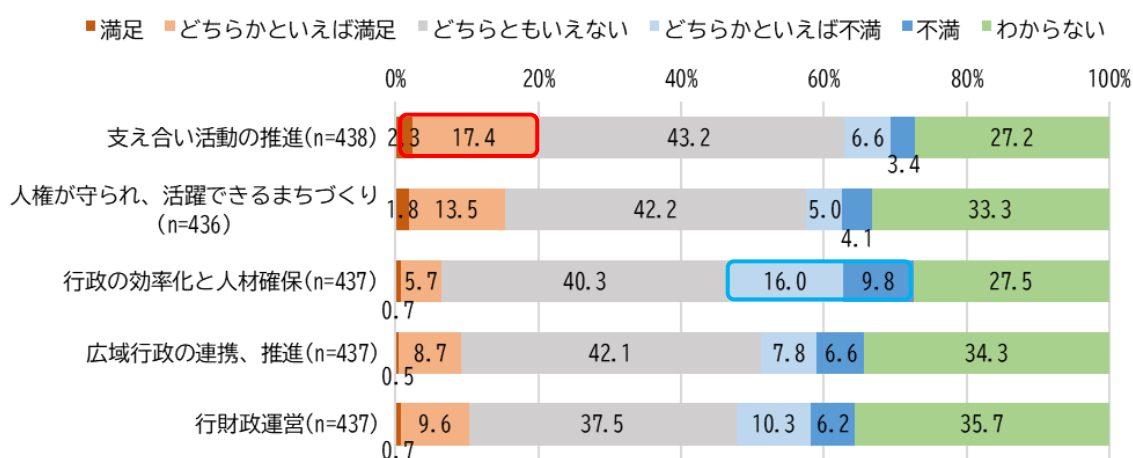
- 「健康で元気なハッピーライフ ～人生を豊かにする健康・スポーツ・文化のまちづくり」の関連施策では、「地域福祉の推進」が、重要度の平均値、満足度の平均値ともに上回っている。
- 「地域医療の充実」「高齢者福祉の充実」「障がい者福祉の充実」の3項目で、満足度が平均値以下、かつ重要度が平均値以上となっている。
- 「生きがいづくりの推進」「健康づくりの推進」「スポーツの振興」「公民館活動等の充実」「文化財や歴史的町並みの保存と活用」の5項目で重要度の平均値を下回っている。



【政策分野Ⅳ】 みんなが元気で主役のまちづくり ～協働でつくる健全財政のまちづくり

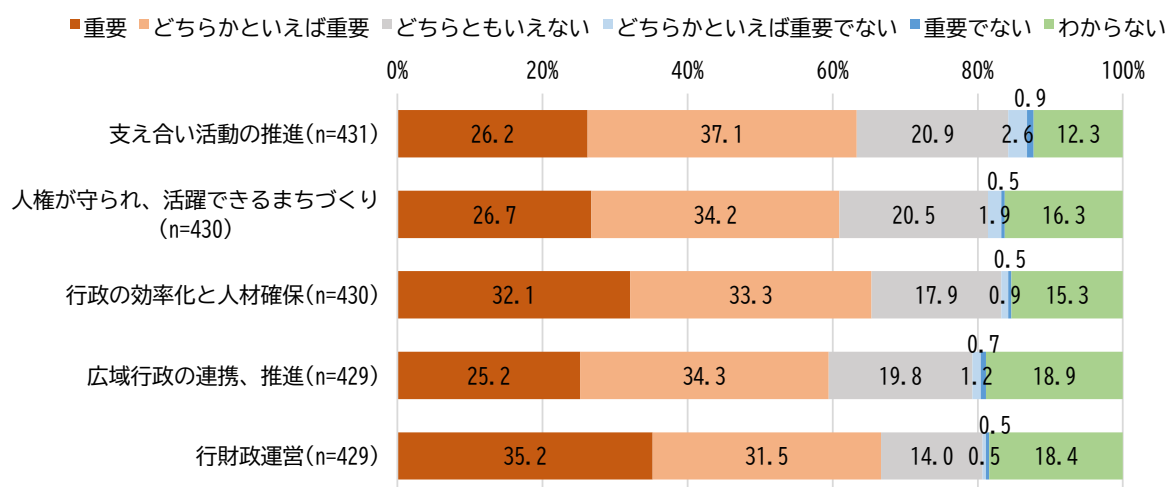
(1) 施策の満足度

- 「みんなが元気で主役のまちづくり ～協働でつくる健全財政のまちづくり」の関連施策では、どの施策も「どちらともいえない」や「わからない」の回答が高い割合となっており、満足度を評価できない人が多い。
- 「支え合い活動の推進」が、「満足」「どちらかといえば満足」の合計が19.7%で最も高い割合になっている。
- 「行政の効率化と人材確保」は「どちらかといえば不満」「不満」の合計が25.8%となっている。



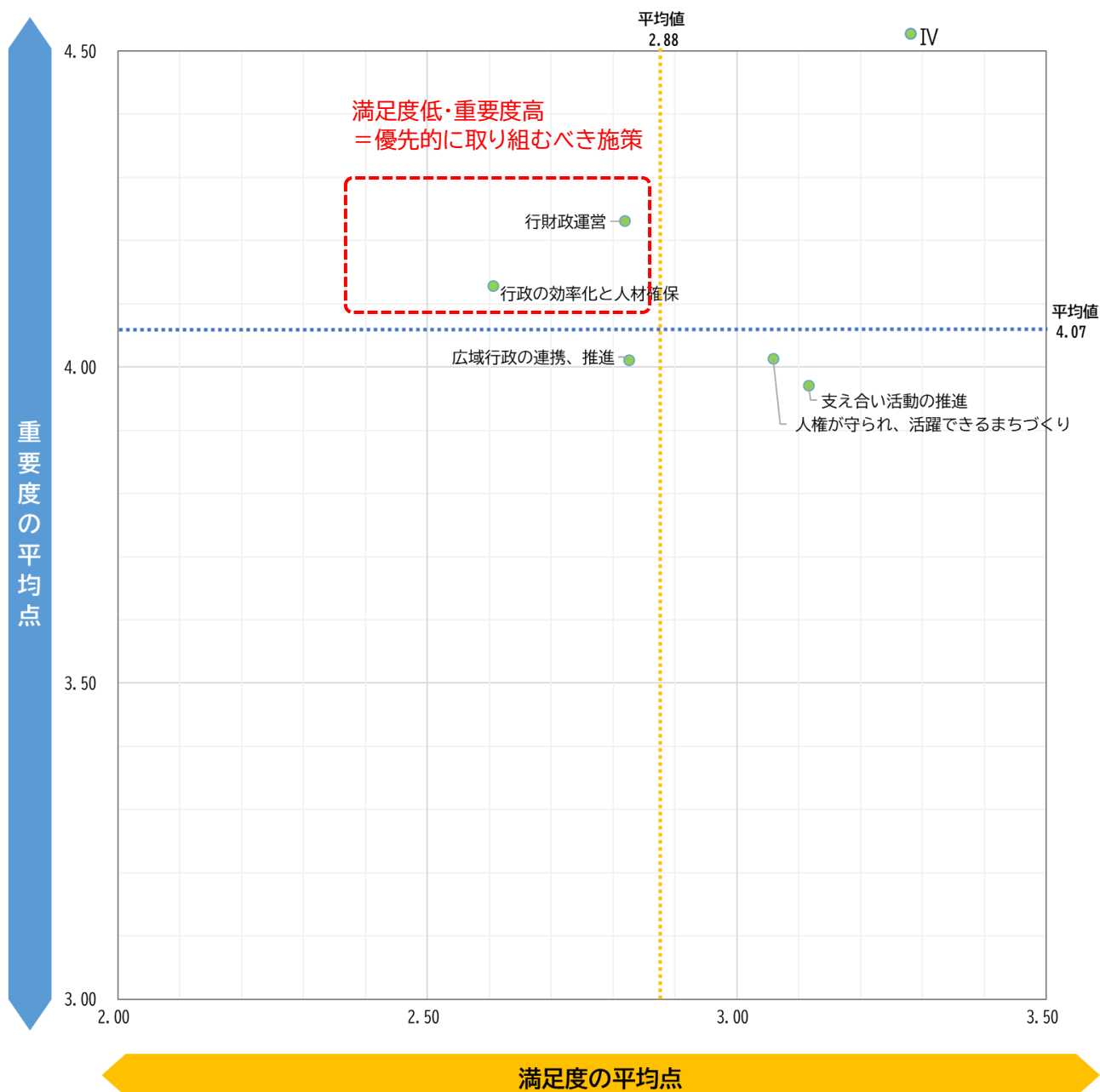
(2) 施策の重要度

- 「みんなが元気で主役のまちづくり ～協働でつくる健全財政のまちづくり」の関連施策では、どの施策も「重要」「どちらかといえば重要」の合計が60%前後である。
- 回答保留（わからない）の割合は、どの施策も10%台となっている。



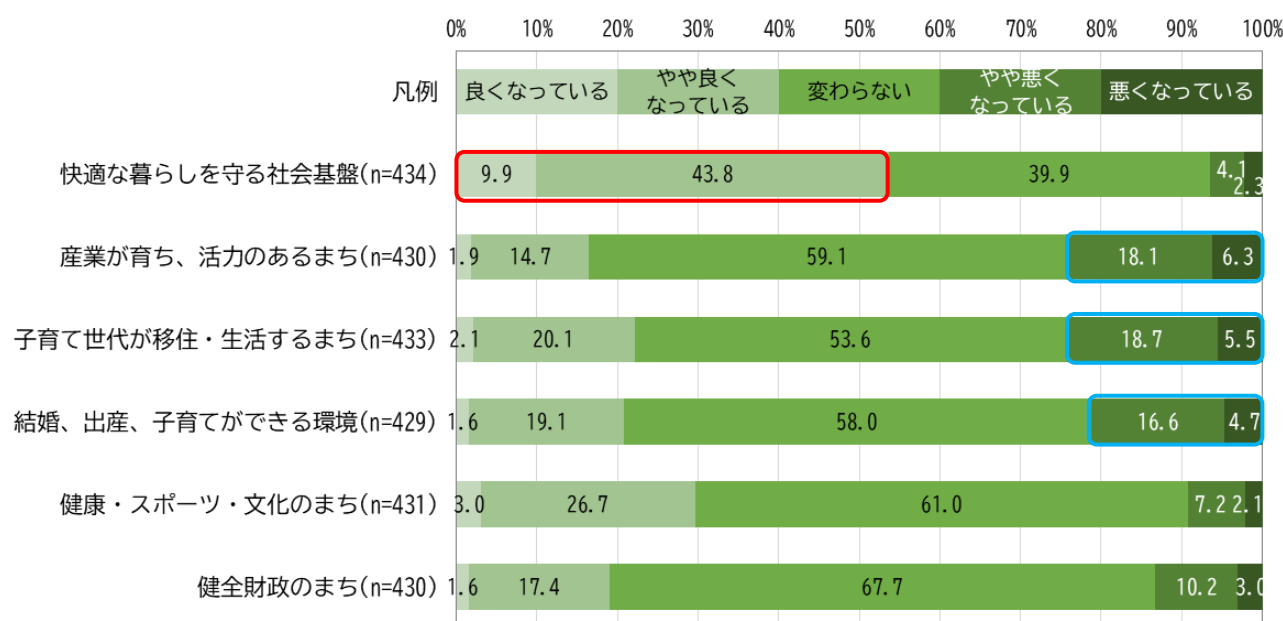
(3) 満足度と重要度の散布図

- 「みんなが元気で主役のまちづくり ～協働でつくる健全財政のまちづくり」の関連施策では、重要度の平均値、満足度の平均値ともに上回る施策はない。
- 「行政の効率化と人材確保」「行財政運営」の2項目で、満足度が平均値以下、かつ重要度が平均値以上となっている。
- 「支え合い活動の推進」「人権が守られ、活躍できるまちづくり」「広域行政の連携、推進」の3項目で重要度の平均値を下回っている。



【政策10年の変化】 第2期南木曽町地方創生総合戦略の取組

- ・南木曽町が平成30年から取り組んできた総合戦略の取組について、「良くなっている」「やや良くなっている」の合計は、「快適な暮らしを守る社会基盤」が53.7%で最も高い。
- ・しかし、残る取組については、「変わらない」という評価が半数以上を占め、施策の効果が住民に実感されていない。
- ・「産業が育ち、活力のあるまち」「子育て世代が移住・生活するまち」「結婚・出産・子育てができる環境」については、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の合計が20%を超えている。

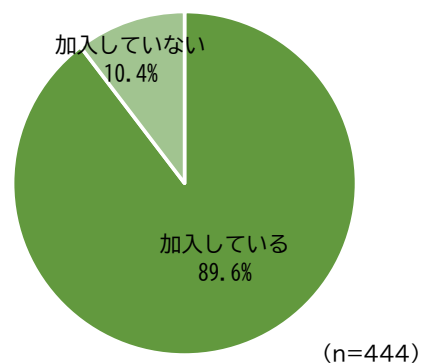


VI. 地域づくり活動の分析

(1) 自治会加入

- ・自治会加入については、「加入している」が 89.6%と多くの回答者が加入している。
- ・年代別では、「40代」以上は「加入している」が 90%を超えている。
- ・居住区別では、「与川」地区の加入率が 100%となっている。
- ・居住年数別では、「5年以上10年未満」の加入率が 100%となっている。

	度数(人)	割合(%)
加入している	398	89.6
加入していない	46	10.4
合計	444	100.0



<年代別>

	加入している	加入していない
10代(n=15)	60.0	40.0
20代(n=29)	55.2	44.8
30代(n=31)	74.2	25.8
40代(n=57)	91.2	8.8
50代(n=73)	94.5	5.5
60代(n=87)	96.6	3.4
70代(n=112)	95.5	4.5
80代以上(n=31)	96.8	3.2

<居住区別>

	加入している	加入していない
与川(n=17)	100.0	0.0
北部(n=38)	89.5	10.5
未留野(n=162)	90.1	9.9
妻籠(n=54)	88.9	11.1
蘭(n=51)	88.2	11.8
広瀬(n=27)	88.9	11.1
田立(n=92)	88.0	12.0

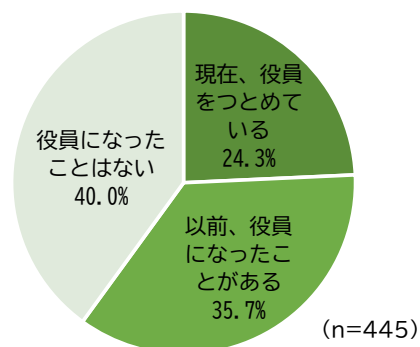
<居住年数別>

	加入している	加入していない
5年未満(n=26)	76.9	23.1
5年以上10年未満(n=22)	100.0	0.0
10年以上20年未満(n=54)	81.5	18.5
20年以上(n=339)	91.2	8.8

(2) 自治会役員経験

- ・自治会役員経験は、「現在、役員をつとめている」が 24.3%であった。
- ・「以前、役員になったことがある」との回答は 35.7%であり、「役員になったことがない」との回答が最も多くなっている。
- ・年代別では、「現在、役員をつとめている」のは「20代」から「70代」で、「以前、役員になったことがある」のは、年代が上がるにつれ、多くなっている。
- ・居住年数別でも、年数が長いほど役員経験の割合は高くなっている。

	度数(人)	割合(%)
現在、役員をつとめている	108	24.3
以前、役員になったことがある	159	35.7
役員になったことはない	178	40.0
合計	445	100.0



<年代別>

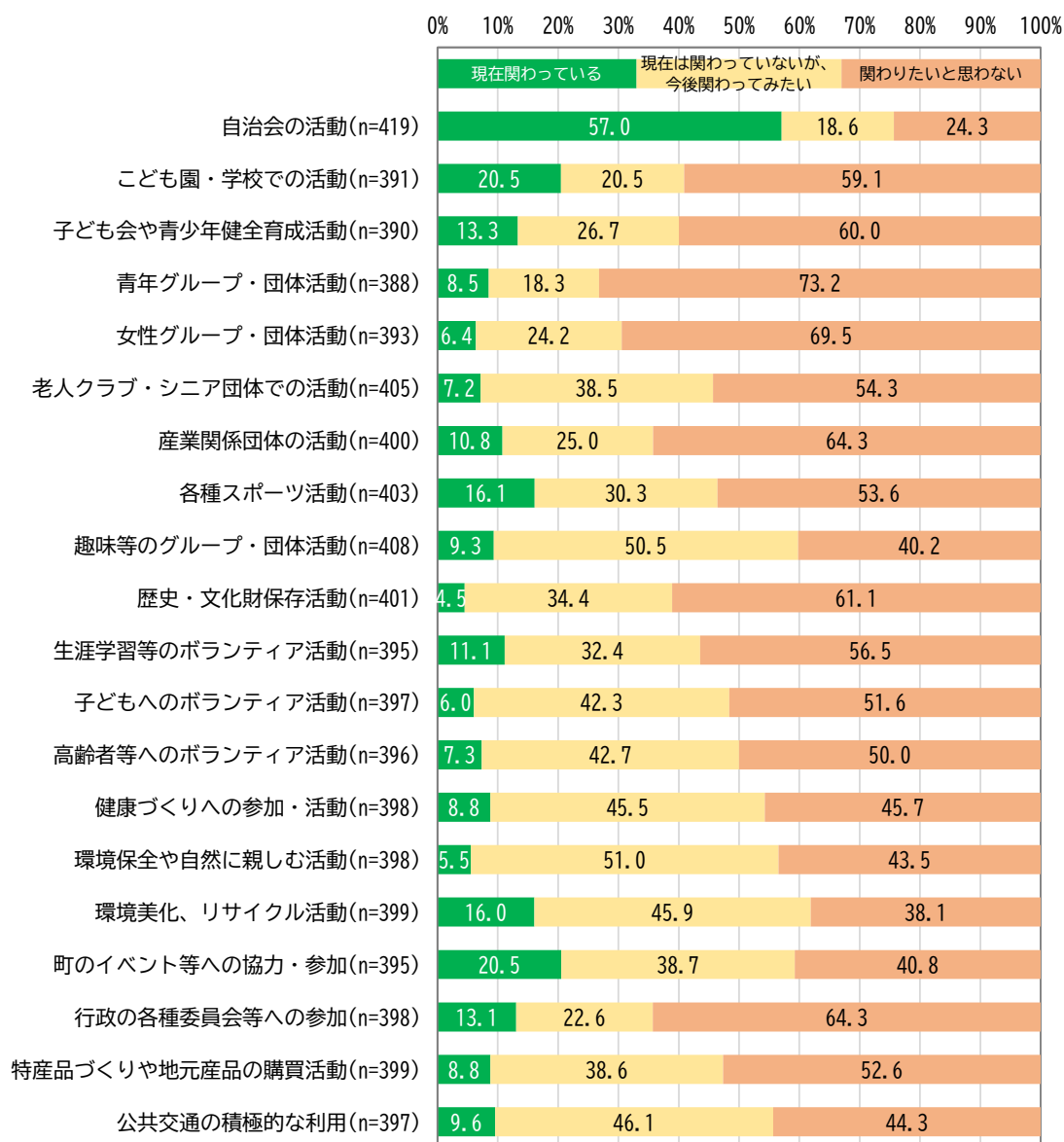
	現在、役員をつとめている	以前、役員になったことがある	役員になったことはない
10代(n=17)	0.0	0.0	100.0
20代(n=29)	10.3	0.0	89.7
30代(n=32)	12.5	9.4	78.1
40代(n=58)	25.9	17.2	56.9
50代(n=74)	27.0	31.1	41.9
60代(n=85)	44.7	41.2	14.1
70代(n=111)	23.4	54.1	22.5
80代以上(n=32)	0.0	84.4	15.6

<居住年数別>

	現在、役員をつとめている	以前、役員になったことがある	役員になったことはない
5年未満(n=26)	11.5	7.7	80.8
5年以上10年未満(n=22)	22.7	13.6	63.6
10年以上20年未満(n=56)	21.4	12.5	66.1
20年以上(n=337)	25.8	43.3	30.9

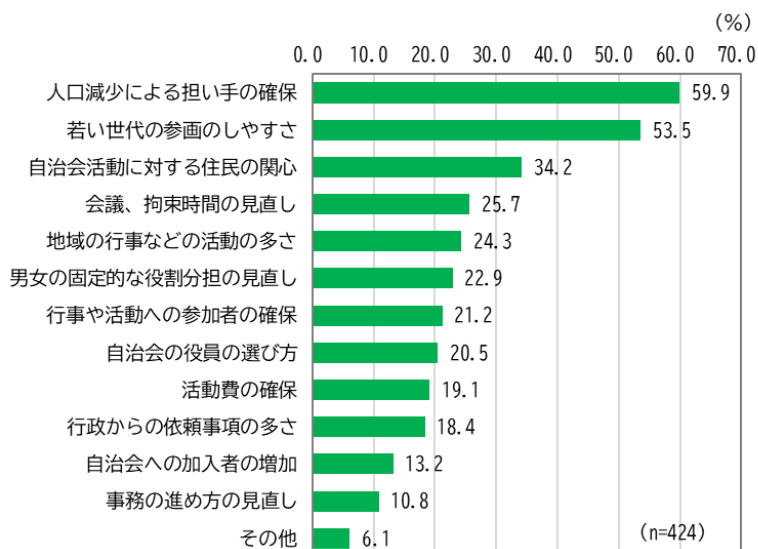
(3) 地域活動への関わり方

- ・地域活動の中では、「自治会の活動」が「現在関わっている」の割合が最も高く 57.0%、その他の活動は高くても 20%程度であり、活発とはいえない。
- ・「現在は関わっていないが、今後関わってみたい」の割合は、「環境保全や自然に親しむ活動」が 51.0%、「趣味等のグループ・団体活動」が 50.5%とともに 50%を超えており、関心が高い。
- ・「関わりたいと思わない」の割合はどの活動も全般的に高いが、特に「子ども会や青少年健全育成活動」「青年グループ・団体活動」「女性グループ・団体活動」「産業関係団体の活動」「歴史・文化財保存活動」「行政の各種委員会への参加」が 60%を超えている。



(4) 地域活動を活性化するために改善すべきこと

- ・地域活動を活性化するために改善すべきこととしては、「人口減少による担い手の確保」が最も多く 59.9%であった。次いで「若い世代の参画のしやすさ」が 53.5%、「自治会活動に対する住民の関心」が 34.2%となっている。
- ・年代別にみると、「人口減少による担い手の確保」はどの世代でも高くなっているほか、「会議、拘束時間の見直し」は 30 代、40 代、50 代の子育て世代で高い傾向がみられる。
- ・居住年数別では、「若い世代の参画のしやすさ」「人口減少による担い手の確保」などは居住年数が短い層で高い傾向がみられる。



<年代別>

	自治会活動に対する住民の関心	若い世代の参画のしやすさ	自治会への加入者の増加	人口減少による担い手の確保	自治会の役員の選び方	行政からの依頼事項の多さ	地域の行事などの活動の多さ	行事や活動への参加者の確保	活動費の確保	男女の固定的な役割分担の見直し	事務の進め方の見直し	会議、拘束時間の見直し	その他
10代(n=17)	41.2	64.7	23.5	52.9	17.6	0.0	35.3	52.9	23.5	23.5	5.9	11.8	5.9
20代(n=29)	20.7	62.1	6.9	55.2	6.9	13.8	20.7	20.7	20.7	17.2	13.8	24.1	13.8
30代(n=32)	28.1	65.6	15.6	56.3	15.6	6.3	34.4	21.9	15.6	25.0	31.3	31.3	0.0
40代(n=56)	25.0	62.5	10.7	57.1	21.4	14.3	33.9	14.3	26.8	19.6	10.7	39.3	8.9
50代(n=69)	33.3	55.1	10.1	66.7	24.6	17.4	30.4	20.3	15.9	29.0	14.5	37.7	5.8
60代(n=78)	44.9	51.3	10.3	61.5	23.1	24.4	16.7	17.9	20.5	28.2	7.7	24.4	5.1
70代(n=105)	34.3	42.9	16.2	59.0	21.9	21.9	15.2	19.0	15.2	20.0	5.7	15.2	4.8
80代以上(n=27)	51.9	55.6	22.2	70.4	11.1	22.2	22.2	37.0	14.8	14.8	7.4	14.8	11.1

<居住年数別>

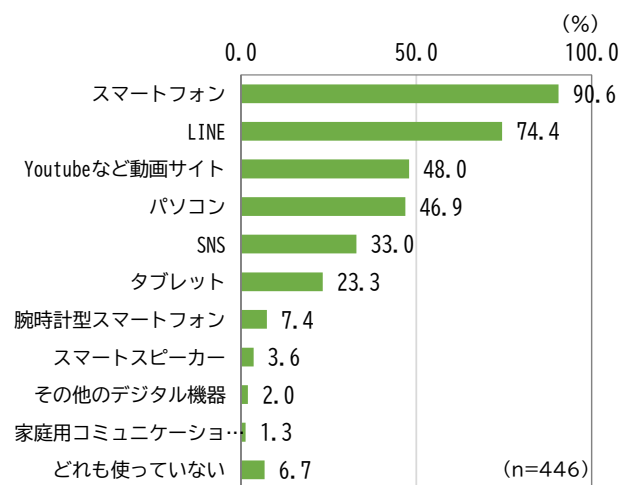
	自治会活動に対する住民の関心	若い世代の参画のしやすさ	自治会への加入者の増加	人口減少による担い手の確保	自治会の役員の選び方	行政からの依頼事項の多さ	地域の行事などの活動の多さ	行事や活動への参加者の確保	活動費の確保	男女の固定的な役割分担の見直し	事務の進め方の見直し	会議、拘束時間の見直し	その他
5年未満(n=25)	36.0	60.0	12.0	52.0	8.0	8.0	24.0	12.0	8.0	24.0	24.0	40.0	8.0
5年以上10年未満(n=21)	33.3	66.7	14.3	71.4	0.0	9.5	38.1	23.8	14.3	23.8	19.0	33.3	4.8
10年以上20年未満(n=53)	30.2	56.6	15.1	43.4	18.9	11.3	35.8	26.4	20.8	30.2	11.3	39.6	3.8
20年以上(n=318)	35.2	51.6	13.2	62.3	23.3	21.4	21.7	20.4	20.1	21.4	9.4	22.3	6.6

VII. デジタル活用の分析

- ・日常的に使用しているデジタル機器は、「スマートフォン」が 90.6%と最も多い。次いで「LINE」74.4%、「Youtube など動画サイト」48.0%となっている。
- ・年齢別では、「スマートフォン」は「30 代」までが 100%利用している。「80 代以上」でも 65.5%が利用している。
- ・「30 代」までは、「LINE」「SNS」「Youtube など動画サイト」などを高い割合で利用している。

(1) 日常的に使用しているデジタル機器（複数回答）

	度数(人)	割合(%)
スマートフォン	404	90.6
タブレット	104	23.3
パソコン	209	46.9
腕時計型スマートフォン	33	7.4
スマートスピーカー	16	3.6
家庭用コミュニケーションロボット	6	1.3
その他のデジタル機器	9	2.0
LINE	332	74.4
SNS	147	33.0
Youtube など動画サイト	214	48.0
どれも使っていない	30	6.7
回答者合計	446	-



<年代別>

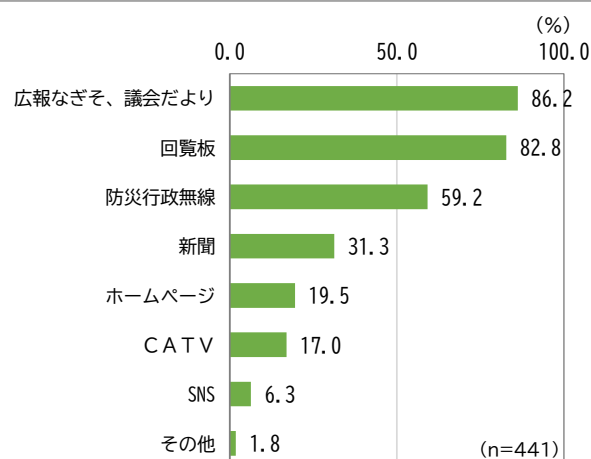
	スマートフォン	タブレット	パソコン	腕時計型スマートフォン	スマートスピーカー	家庭用コミュニケーションロボット	その他のデジタル機器	LINE	SNS	Youtube など動画サイト	どれも使っていない
10代(n=16)	100.0	56.3	43.8	6.3	18.8	6.3	18.8	100.0	68.8	100.0	0.0
20代(n=29)	100.0	37.9	62.1	17.2	3.4	3.4	0.0	93.1	86.2	86.2	0.0
30代(n=32)	100.0	31.3	43.8	9.4	9.4	3.1	0.0	96.9	81.3	96.9	0.0
40代(n=58)	96.6	34.5	62.1	12.1	5.2	1.7	3.4	96.6	44.8	63.8	0.0
50代(n=74)	94.6	24.3	51.4	6.8	1.4	0.0	0.0	82.4	33.8	48.6	4.1
60代(n=88)	90.9	17.0	45.5	3.4	2.3	1.1	1.1	72.7	19.3	35.2	6.8
70代(n=109)	84.4	14.7	42.2	8.3	1.8	0.9	2.8	55.0	11.9	27.5	10.1
80代以上(n=29)	65.5	6.9	24.1	0.0	0.0	0.0	0.0	27.6	3.4	6.9	34.5

VIII. 協働の状況

(1) 行政情報の取得方法[複数回答]

- ・行政情報の取得方法は、「広報なぎそ、議会だより」が 86.2%と最も多い。次いで「回覧板」82.8%、「防災行政無線」59.2%となっている。
- ・年代別にみると、どの年代も「回覧板」「広報なぎそ、議会だより」で取得している割合が高い。「SNS」は若い世代での割合がやや高くなっている。
- ・「60代」以上は「新聞」からも取得している人が多い。

	度数(人)	割合(%)
回覧板	365	82.8
広報なぎそ、議会だより	380	86.2
ホームページ	86	19.5
SNS	28	6.3
防災行政無線	261	59.2
CATV	75	17.0
新聞	138	31.3
その他	8	1.8
回答者合計	441	-



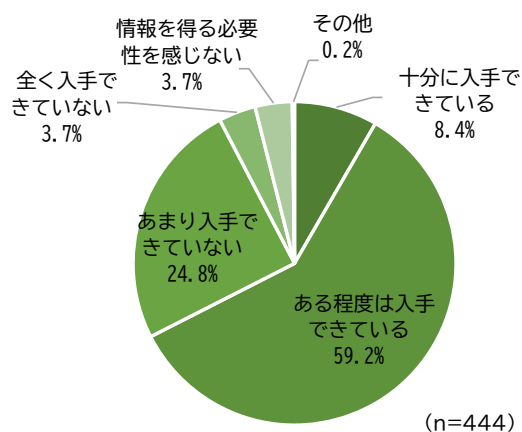
<年代別>

	回覧板	広報なぎそ、議会だより	ホームページ	SNS	防災行政無線	CATV	新聞	その他
10代(n=17)	64.7	52.9	17.6	17.6	11.8	17.6	23.5	0.0
20代(n=29)	72.4	82.8	27.6	17.2	37.9	3.4	10.3	3.4
30代(n=31)	83.9	77.4	41.9	19.4	45.2	19.4	16.1	0.0
40代(n=58)	75.9	87.9	24.1	8.6	55.2	13.8	12.1	3.4
50代(n=74)	82.4	83.8	17.6	2.7	60.8	23.0	24.3	2.7
60代(n=82)	89.0	93.9	18.3	3.7	69.5	22.0	40.2	0.0
70代(n=110)	86.4	90.9	12.7	2.7	67.3	16.4	42.7	2.7
80代以上(n=28)	89.3	89.3	14.3	0.0	67.9	7.1	71.4	0.0

(2) 行政情報が取得できているか

- ・行政情報を「十分に入手できている」「ある程度は入手できている」合わせて 67.6%である。「あまり入手できていない」「全く入手できていない」人の割合が 30%近くとなっている。

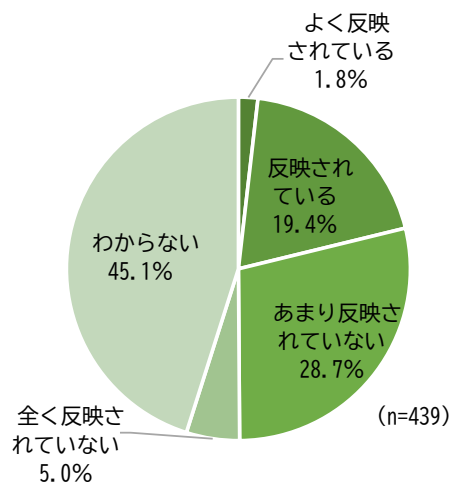
	度数(人)	割合(%)
十分に入手できている	36	8.4
ある程度は入手できている	255	59.2
あまり入手できていない	107	24.8
全く入手できていない	16	3.7
情報を得る必要性を感じない	16	3.7
その他	1	0.2
合計	431	100.0



(3) 町の施策に住民の意見が反映されているか

- ・町の施策の住民意見の反映については、「よく反映されている」「反映されている」合計で 21.2% であるが、「わからない」との回答が最も多く 45.1% であった。
- ・年代別では、各年代で大きな差異はない。
- ・居住年数別では、「5 年以上 10 年未満」で、「反映されている」との回答が 28.6% と他の居住年数より多い割合になっている。

	度数(人)	割合(%)
よく反映されている	8	1.8
反映されている	85	19.4
あまり反映されていない	126	28.7
全く反映されていない	22	5.0
わからない	198	45.1
合計	439	100.0



<年代別>

	よく反映されている	反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	わからない
10代(n=18)	0.0	0.0	27.8	5.6	66.7
20代(n=30)	6.7	16.7	20.0	6.7	50.0
30代(n=31)	0.0	22.6	16.1	9.7	51.6
40代(n=58)	0.0	20.7	31.0	5.2	43.1
50代(n=73)	2.7	24.7	34.2	6.8	31.5
60代(n=81)	2.5	13.6	30.9	2.5	50.6
70代(n=110)	0.9	22.7	29.1	4.5	42.7
80代以上(n=28)	3.6	25.0	21.4	0.0	50.0

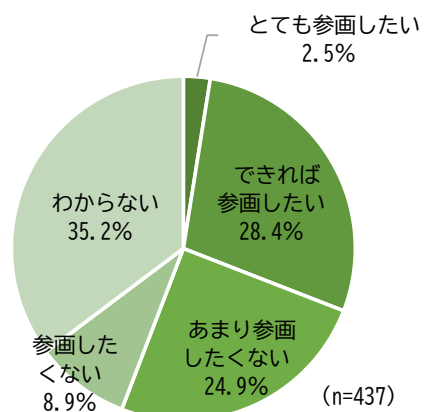
<居住年数別>

	よく反映されている	反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	わからない
5年未満(n=26)	3.8	15.4	23.1	7.7	50.0
5年以上10年未満(n=21)	0.0	28.6	28.6	9.5	33.3
10年以上20年未満(n=56)	3.6	12.5	26.8	3.6	53.6
20年以上(n=329)	1.5	20.7	29.5	4.9	43.5

(4) 住民参加の機会があれば参画してみたいか

- ・住民参加の機会への参画については、「とても参画したい」「できれば参画したい」の合計は、30.9%であった。一方、「参画したくない」「あまり参画したくない」は33.8%である。
- ・年代別では、「30代」と「50代」で「とても参画したい」という回答はみられなかった。
- ・居住年数別では、「5年以上10年未満」で、「あまり参画したくない」との回答が42.9%と他の居住年数より高い割合になっている。

	度数(人)	割合(%)
とても参画したい	11	2.5
できれば参画したい	124	28.4
あまり参画したくない	109	24.9
参画したくない	39	8.9
わからない	154	35.2
合計	437	100.0



<年代別>

	とても参画したい	できれば参画したい	あまり参画したくない	参画したくない	わからない
10代(n=18)	5.6	16.7	11.1	16.7	50.0
20代(n=30)	3.3	30.0	23.3	6.7	36.7
30代(n=31)	0.0	35.5	25.8	6.5	32.3
40代(n=58)	1.7	24.1	24.1	8.6	41.4
50代(n=72)	0.0	37.5	30.6	6.9	25.0
60代(n=81)	2.5	22.2	25.9	8.6	40.7
70代(n=109)	3.7	29.4	25.7	9.2	32.1
80代以上(n=26)	3.8	26.9	23.1	3.8	42.3

<居住年数別>

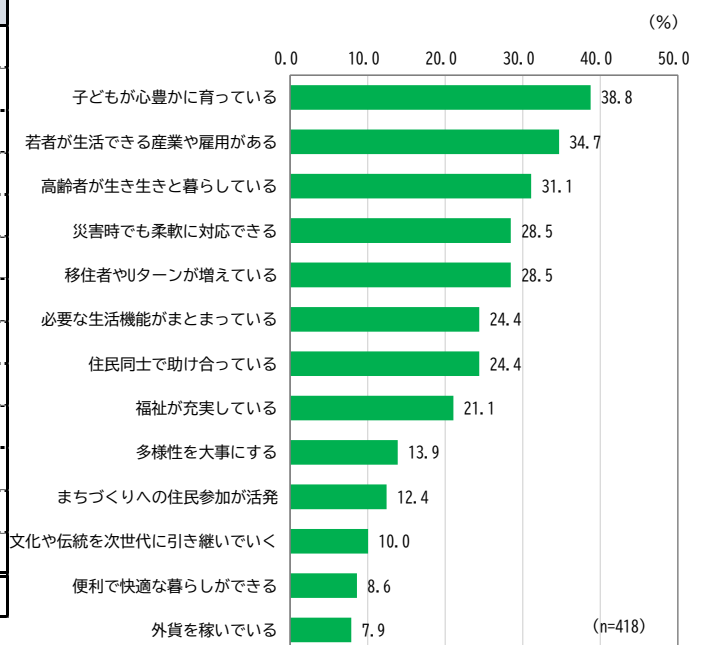
	とても参画したい	できれば参画したい	あまり参画したくない	参画したくない	わからない
5年未満(n=26)	3.8	42.3	15.4	11.5	26.9
5年以上10年未満(n=21)	4.8	19.0	42.9	0.0	33.3
10年以上20年未満(n=56)	1.8	28.6	21.4	16.1	32.1
20年以上(n=327)	2.1	28.1	25.4	8.3	36.1

IX. 今後の町づくりについて

(1) これからの10年でどのような南木曽町になってほしいか（複数回答）

- ・「子どもが心豊かに育っている」との回答が最も多く、38.8%であった。次いで「若者が生活できる産業や雇用がある」「高齢者が生き生きと暮らしている」が30%以上となっている。
- ・一方、「便利で快適な暮らしができる」「外貨を稼いでいる」は10%に満たず、関心が低い。
- ・年代別では、「30代」以下では「子どもが心豊かに育っている」が50%を越えている。「60代」以上は「高齢者が生き生きと暮らしている」が他の年代よりも高くなっている。「10代」は「多様性を大事にする」の回答が多くみられる。
- ・居住年数別では、「5年以上10年未満」で「子どもが心豊かに育っている」「移住者やリターンが増えている」の回答が50%と多くなっている。

	度数(人)	割合(%)
子どもが心豊かに育っている	162	38.8
若者が生活できる産業や雇用がある	145	34.7
高齢者が生き生きと暮らしている	130	31.1
災害時でも柔軟に対応できる	119	28.5
移住者やリターンが増えている	119	28.5
必要な生活機能がまとまっている	102	24.4
住民同士で助け合っている	102	24.4
福祉が充実している	88	21.1
多様性を大事にする	58	13.9
まちづくりへの住民参加が活発	52	12.4
文化や伝統を次世代に引き継いでいく	42	10.0
便利で快適な暮らしができる	36	8.6
外貨を稼いでいる	33	7.9
回答者数	418	-



<年代別>

	必要な生活機能がまとまっている	災害時でも柔軟に対応できる	高齢者が生き生きと暮らしている	子どもが心豊かに育っている	住民同士で助け合っている	福祉が充実している	移住者やリターンが増えている	若者が生活できる産業や雇用がある	外貨を稼いでいる	便利で快適な暮らしができる	多様性を大事にする	文化や伝統を次世代に引き継いでいく	まちづくりへの住民参加が活発
10代(n=17)	17.6	17.6	23.5	64.7	11.8	5.9	41.2	29.4	11.8	17.6	29.4	11.8	0.0
20代(n=29)	20.7	24.1	13.8	55.2	17.2	13.8	37.9	34.5	17.2	13.8	6.9	10.3	17.2
30代(n=29)	34.5	3.4	17.2	51.7	24.1	13.8	31.0	37.9	13.8	24.1	17.2	13.8	17.2
40代(n=56)	19.6	30.4	17.9	39.3	12.5	23.2	33.9	32.1	12.5	14.3	19.6	12.5	10.7
50代(n=69)	33.3	30.4	26.1	40.6	29.0	18.8	21.7	31.9	7.2	8.7	14.5	4.3	15.9
60代(n=78)	23.1	37.2	39.7	30.8	23.1	32.1	20.5	35.9	3.8	9.0	11.5	7.7	10.3
70代(n=106)	24.5	31.1	43.4	30.2	32.1	18.9	28.3	38.7	4.7	0.0	12.3	12.3	10.4
80代以上(n=25)	12.0	28.0	40.0	36.0	28.0	32.0	32.0	32.0	8.0	0.0	4.0	16.0	20.0

<居住年数別>

	必要な生活機能がまとまっている	災害時でも柔軟に対応できる	高齢者が生き生きと暮らしている	子どもが心豊かに育っている	住民同士で助け合っている	福祉が充実している	移住者やリターンが増えている	若者が生活できる産業や雇用がある	外貨を稼いでいる	便利で快適な暮らしができる	多様性を大事にする	文化や伝統を次世代に引き継いでいく	まちづくりへの住民参加が活発
5年未満(n=26)	34.6	26.9	26.9	42.3	26.9	15.4	15.4	26.9	15.4	23.1	15.4	11.5	11.5
5年以上10年未満(n=20)	15.0	20.0	30.0	50.0	15.0	25.0	50.0	35.0	0.0	10.0	15.0	10.0	25.0
10年以上20年未満(n=55)	20.0	23.6	30.9	41.8	16.4	25.5	30.9	27.3	9.1	14.5	23.6	7.3	7.3
20年以上(n=312)	25.3	30.4	31.4	36.5	25.6	20.5	27.2	37.2	7.7	6.1	12.2	10.6	12.5

(2) 将来に向けて残していくべき南木曽町特有の大事なもの、価値（自由記述）

- ・南木曽町特有の大事なもの、価値について自由記述で聞いた結果を分類した。「自然・景観」に関する意見が最も多くあげられた。
- ・次いで、「伝統文化」、「妻籠宿・古い街並み」、「人のよさ」が多い。

